“大阪医科大学関係者の皆様”へ

FELICE で
フェリーチェ
理想の結婚

フェリーチェは、メディカル人材企業との提携を通じて、
医療の第一線でご活躍の医師・歯科医師を中心にお迎えし、
理想の結婚をプロデュースすることを目的として
創設された会員制クラブです。
万全の個人情報管理と医療業界を熟知した専任コーディネーター
だからできる「洗練された出逢い」をあなたに。

＜成婚事例＞

男性			女性	
33歳 大阪医科大学	医師	♥	27歳 神戸薬科大学	薬剤師
31歳 大阪市立大学	医師	♥	28歳 京都府立医科大学	医師
34歳 慶應義塾大学	医師	♥	26歳 神戸女学院大学	英語教師
36歳 神戸大学	医師	♥	33歳 関西医科大学	医師
38歳 京都府立医科大学	医師	♥	29歳 近畿大学	会社員
37歳 愛知医科大学	医師	♥	31歳 同志社大学	客室乗務員
41歳 関西医科大学	医師	♥	33歳 京都女子短期大学	会社員
38歳 大阪大学	医師	♥	32歳 兵庫医科大学	医師
37歳 近畿大学	医師	♥	29歳 大阪医科大学	医師

大阪医科大学関係者様
限定キャンペーン
詳しくはお問合せください。

フェリーチェは、個人情報保護を第一に、あえてオーソドックスなスタイルを守り、
医療業界を熟知した専任コーディネーターがご本人様のお人柄・ご要望をしっかりと把握し、
最適なお相手をご紹介いたします。

●入会資格
◇男性25歳～50歳　医師、歯科医師
◇女性20歳～37歳　医師または短大・専門学校卒以上
男女ともに結婚をお考えの独身者の方
※上記条件を原則として、そのほか本クラブの独自の入会審査基準がございます。

詳しくはフリーダイヤル、またはホームページにて、フェリーチェのすべてがわかる資料をご請求ください。

0120-683-156 www.felice.cc　フェリーチェ　検索
※「フェリーチェ」で検索してください。
受付時間／10：00～20：00　水曜定休日

フェリーチェはおかげさまで 創立14周年 を迎えました。そして、約4000社ある事業者の中で「会員内容の的確さ」「スタッフのサポート体制」など
11項目からなる「顧客満足度の高い会社」 2年連続 総合1位 （オリコン株式会社調べ）との評価をいただきました。
今後とも「真の顧客サービス」を目指し、皆さまのご結婚を全力でサポートさせていただきます。

無料 親御様向け説明会のご案内

●開催日時：2016年5月17日(火)、19日(木)、20日(金)、24日(火)、26日(木)、27日(金)、31日(火)、
6月2日(木)、3日(金)、9日(木)、10日(金)、14日(火)、16日(木)、17日(金)
各日14:00～　※他の日程での設定もございますので詳細はお問い合わせください。
●会　　場：芦屋ラウンジ・銀座ラウンジ・横浜ラウンジ
●専用ダイヤル：芦屋 0797-25-1076／銀座 03-6228-5720／横浜 045-264-4593

毎月1500件以上のお見合いをコーディネートしているプロフェッショナルがどんなご相談にもお応えします。

プライムマリッジ株式会社
www.prime-marriage.com

結婚相手紹介サービス業認証機構より適正なサービス事業者として認証付与を受けています。

JMIC 日本結婚相手紹介サービス協議会

個人情報管理・プライバシー保護には細心の注意を払っています。

銀座ラウンジ　東京都中央区銀座6-4-1 東海堂銀座ビル4F
芦屋ラウンジ　兵庫県芦屋市業平町6-16 芦屋ファルファーラ4F
横浜ラウンジ　横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワーA4F
梅田ラウンジ　大阪府大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第四ビル10F

大阪医科大学 仁泉会ニュース

仁泉会ニュース 第 47 巻 第 3 号
発行所
〒569-8686 高槻市大学町 2-7
電話 072-682-6166　FAX 072-682-6636
発行者 河野 公一　発行部数 6,100 部
URL http://www.jinsenkai.net

2016.5.29

平成28年 評議員会 および総会を開催いたします

目次

P3	平成28年 評議員会及び総会招集のご案内	
P7	評議員会および総会が開催される初夏の京都で、もうひとつのお楽しみを	森本博子（学24期）
P9	平成27年度 卒業証書・学位記授与式	
	学長告辞	大阪医科大学学長　大槻勝紀
P11	祝辞	大阪医科大学 仁泉会理事長　河野公一
P12	医学部長式辞	大阪医科大学医学部長　大槻勝紀
P14	第65回 卒業者氏名	
P15	事業報告 学生生活虎の巻 その壱 若手の先生と学生の交流の場が設けられました！　後編	
P20	受賞報告　学部 15 期　谷口紀善先生	
P21	学会報告	
	第 29 回 近畿小児科学会を開催して	玉井 浩（学28期）
P22	お詫びと訂正	
P23	支部だより	
	報告 京都仁泉会学術講演会	寺村和久（学37期）
P25	仁泉会大阪市北区支部総会開催結果報告書	末澤慶昭（学19期）
P26	平成 27 年度 仁泉会茨木支部の近況と総会の報告	井上俊宏（学43期）
P27	平成 28 年仁泉会東大阪支部 年頭総会報告	三宅直子（学28期）
P28	仁泉会神戸支部新年会	中本博士（学39期）
P29	平成 27年度仁泉会香川県支部総会のご報告	安賀文俊（学51期）
P30	平成 28年度仁泉会高知県支部総会・新年会報告	市原直子（学24期）
P32	クラス会だより	
	学 28 期（昭和 54 年度）卒業生	松井昭彦（学28期）
	双葉会　学年同窓会の報告	
	役員就任	
P33	学 35 期（昭和 61 年卒）	高須 朗（学35期）
	卒後 30 周年同窓会を開催しました！	
P34	仁泉ひろば	
	社会保障費の充実とムダの削減を	谷口紀善（学15期）
P35	大阪医大六甲会の報告	黒川晃夫（学43期）
P37	会員著書	
	加藤鈴幸先生（学 14 期）祐森弘子先生（学36期）	
P38	新聞切抜	
	竹内宏一先生（学18期）	
P39	赤尾幸博先生（学 27 期）	小嶋昭次郎（学29期）
P40	奥田準二先生（学 33 期）樋口和秀教授	
P41	町工場と大学医のコラボ	
P42	冊子切抜	
	横山光昭先生（学 19 期）	
P43	安藤嗣彦先生（学 20 期）鈴木克司先生（学 31 期）	
P44	奥西秀樹先生（学 23 期）	
P46	エッセイ「オリンピック物語（2）」	西村 保（学 4 期）
P47	まんが	ほんだぽん太（学31期）
P48	リレーエッセイ	丸川 治（学32期）
P49	会員訃報	
	大阪医大女医会のご案内	
P51	編集後記	

平成 28 年 5 月 1 日発行　大阪医科大学仁泉会ニュース　第 47 巻 第 3 号

平成28年 評議員会及び総会 招集のご案内

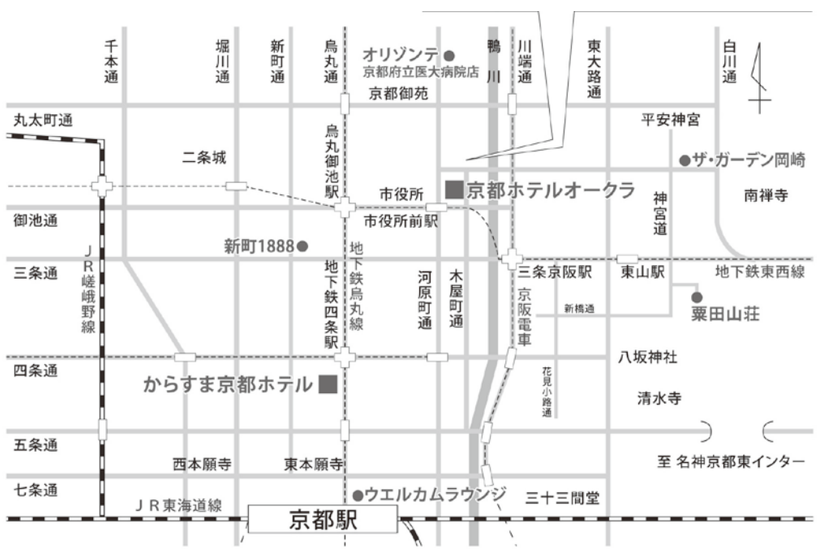
平成28年の仁泉会定期総会及び評議員会を下記の要領にて開催致します。出欠をお手数ですが同封の総会ハガキ（兼委任状）にて必ずご返信ください。

尚、総会ハガキをご提出いただけない場合は、議長に議決を一任したものとして取扱いをさせて頂きますのでご承知おき下さい。総会終了後には恒例の総懇親会も開催致します。多数ご出席下さいますようお願い申し上げます。

理事長　河野公一

日　時：平成28年5月29日（日）
午後4時より評議員会
午後4時30分より定期総会
午後6時より懇親会
会　場：京都ホテルオークラ
3階「光舞の間」

京都ホテルオークラご案内地図



●お車でのご来場はご遠慮ください

定期評議員会次第

1．評議員会の今後の運営について
2．その他

定期総会次第

1．開会の辞
2．黙祷
3．理事長挨拶
4．ご来賓挨拶
5．仮議長指名
6．議長選任
7．議事録署名者選出
8．報告事項
　①平成27年度事業報告
　②平成28年度事業計画について
　③平成 28年度予算案について
　④合同懇談会報告
9．議案
　①平成27年度決算案承認を求める件
　　監査報告
　②その他
10．その他
11．閉会の辞

平成28年度
仁泉会事業計画（案）

【公益目的事業】

1. 学術振興研究援助事業

学術振興及び研究発展の為に、医学会及び研究会に対して助成を行う。

2. 奨学金貸与事業

良医の育成を目的とした、医学部学生に対して奨学金の貸与を行う。

【一般事業】

3. 仁泉会本部諸事業

1）大阪医科大学への後援

① 母校 90 周年募金事業活動へ協力し、母校の発展向上に寄与する。
② 平成 28年度卒業生の内、優秀な者に対し、理事会の議を経て、仁泉会理事長賞を授与する。
③ 学生の諸活動への援助を行う。
④ 母校の発展向上に寄与する為の支援・協力活動を推進する。
⑤ 母校執行部、教職員並びに学友会との連携をはかる。
⑥ 母校国家試験対策事業への援助を行う。

2）名簿作成事業

平成 28 年度版仁泉会名簿を発行する。

3）会員の福利厚生への支援

① 会員の動向把握を行い、会員慶弔時における福利厚生につとめる。
② 会員相互の親睦交流を深める為の活動支援を行う。

4）仁泉会組織強化に関する事業

① 支部組織強化の為の活動への支援。
② 会員で構成される団体への支援。

③ 会費納入の理解協力を求め、納入率向上の為の広報活動を行う。
④ 地区合同懇談会を開催し、組織率向上を目指す。
⑤ 会費口座引落の利用を推奨する。

5）全国私立医大同窓会との連携

全国私立医大同窓会連絡会に参加し、私立医科大学同窓会相互の連携と情報共有を深め本会の発展向上を図る。

6）広報事業

① 機関紙「仁泉会ニュース」の定期発行（学術機関誌としての内容充実）。
② 電子化広報の充実拡充（仁泉会ホームページ及びフェイスブックの更新）。

7）定款改正について

定款の改正案を作成し総会に提出する。

4. その他法人の目的達成に必要な事業

以上

平成 28 年度基金会計収支予算書（案）

【従来様式】

（自平成28 年 4 月 1 日～至平成 29 年 3 月31日）　（単位　円）

	科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
収入の部					
	1. 基金運用収入	6,200,000	5,600,000	600,000	
	①基金利子	100,000	100,000	0	基金運用利息
	②返還金	6,100,000	5,500,000	600,000	奨学金返済
	2. 寄　付　金	10,000	10,000	0	
	3. 雑　収　入	10,000	10,000	0	普通預金利息
	当期収入（A）	6,220,000	5,620,000	600,000	
	前期繰越額	14,000,000	14,267,326	△ 267,326	
	合計（B）	20,220,000	19,267,326	332,674	
支出の部					
	1. 事　業　費	4,400,000	5,000,000	△ 600,000	
	①研究助成費	100,000	400,000	△ 300,000	
	②研究奨励費	100,000	400,000	△ 300,000	
	③奨　学　費	4,200,000	4,200,000	0	7 名程度
	2. 雑費	20,000	20,000	0	口座引落手数料
	3. 繰　入　金	2,000,000	2,000,000	0	
	4. 予　備　費	13,800,000	12,867,326	932,674	
	当期支出（C）	20,220,000	19,887,326	332,674	
	収支差額（A）－（C）	△14,000,000	△14,267,326	267,326	
	次期繰越（B）－（C）	－	－	－	

平成 28 年度一般会計収支予算書（案）

【従来様式】

（自平成28 年 4 月 1 日～至平成29 年 3 月31日）　（単位　円）

	科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
収入の部					
	1. 入　会　金	1,000,000	1,000,000	0	新卒者100 名
	2. 会　　費	25,000,000	25,000,000	0	
	3. 寄　付　金	10,000	10,000	0	-
	4. 雑　収　入	5,000,000	5,000,000	0	広告 / 預金利子等
	5. 繰　入　金	2,000,000	2,000,000	0	
	当期収入（A）	33,010,000	33,010,000	0	
	前期繰越額	11,100,000	10,242,783	857,217	
合計（B）		44,110,000	43,252,783	857,217	
支出の部					
	1. 事　業　費	19,800,000	22,100,000	△ 2,300,000	
	①会　報　費	10,000,000	10,000,000	0	会報誌発行 / 発送
	②学　術　費	1,000,000	1,800,000	△ 800,000	学会支援
	③学生後援費	1,000,000	1,000,000	0	学園祭支援等
	④記念事業費	200,000	200,000	0	卒業記念品作成
	⑤福利厚生費	100,000	100,000	0	
	⑥慶　弔　費	800,000	800,000	0	供花料
	⑦国家試験対策費	200,000	200,000	0	
	⑧名簿作成費	6,500,000	8,000,000	△ 1,500,000	名簿作成費
	2. 会　議　費	2,500,000	2,500,000	0	総会 / 理事会他
	3. 管　理　費	14,000,000	14,200,000	△ 200,000	
	①給　料　手　当	7,000,000	7,000,000	0	事務員３名
	②旅　費	1,000,000	1,000,000	0	理事会、支部会出席他
	③通　信　費	300,000	300,000	0	切手・電話・電報料
	④備　品　費	200,000	200,000	0	
	⑤消　耗　品　費	450,000	450,000	0	
	⑥会費徴収費	350,000	350,000	0	
	⑦社会保険料	800,000	800,000	0	
	⑧交　際　費	500,000	500,000	0	支部会賛助金他
	⑨諸　謝　料	1,300,000	1,500,000	△ 200,000	監査・弁護士顧問料
	⑩雑　費	500,000	500,000	0	
	⑪事務局費	600,000	600,000	0	事務室賃借料
	⑫租税公課	1,000,000	1,000,000	0	消費税他
	⑬積立金	400,000	400,000	0	退職金積立編入
	4. 予　備　費	7,410,000	4,052,783	3,357,217	
	当期支出（C）	44,110,000	43,252,783	857,217	
	収支差額（A）－（C）	△11,100,000	△ 10,242,783	△ 857,217	
次期繰越（B）－（C）		－	－	－	

（注）1. 借入金限度額　0 円
　　2. 債務負担額　　0 円

次ページに
お店情報と
京都マップ付き！

評議員会および総会が開催される初夏の京都で、もうひとつのお楽しみを

ようこそ京都へ

文責／森本博子（学 24 期）

今年の仁泉会総会は京都で開催されます。会場は京都ホテルオークラです。京都の人間にとってはオークラの傘下に入ったとはいえ、あくまで京都ホテルです。この４月１日から総料理長が変ったということで、今までもお料理は評判がよかったですがさらに進化するのでは、と期待されています。

京都は観光都市ですが、権威あるアメリカの旅行雑誌「トラベル・アンド・レジャー」誌の読者投票で京都市が世界一の人気観光都市に 2 年連続して選出されたこともあり、門川市長をトップに、更に世界から観光客を呼び込もうと、公共交通機関を利用しやすいように表示を工夫したり、道路標示をわかりやすくしたり、また電線の地中化をはかり、急速に街全体がきれいになってるのを実感します。ただ観光客が増えすぎ、シーズンには車で渋滞し、観光地は人であふれ、地元の生活にまで影響を与えるようになっているのは困りものです。

ところで京都ホテルオークラは京都の街の中心部にあり、いわゆる田の字、地域の東北にあります。ホテルを拠点にして歩いて探索するには最適です。ご存知のように京都の街の中心部は碁盤の目のように道が通っていますのでとてもわかりやすいです。歩いてみると有名な老舗をみつけたり、また町家を改造したしゃれたお店があったりと楽しいです。京都特集をすれば必ず売れるというくらい京都を紹介する本はあふれかえっています。それで詳しくはそういう本を参考にしていただくこととして、すこし変った視点からご案内しましょう。

京都市はパンの消費量が全国一、というほどですからおいしい、また個性的なパン屋さんがあります。21 年には東京にも進出したル・プチメック御池店（①）。大丸京都店など市内 4 店舗を展開しています。客の注文を受けてから焼き上げるパニーニが人気のグランデイール御池店（②）。外がカリカリ、中がモチモチで、耳の部分もおいしいという「ワルダートースト」のワルダー（③）、その他にもたくさんあります。歩いて自分好みのパンのお店を見つけてください。

最近目立つのがチョコレートの専門店。ニューヨークに本店があり日本での支店を一号店を京都にオープンさせた「マリベル（④）」。昨年開店した「ベルアメール 京都別邸⑤」、京都伏見の日本酒や国産茶の味わいを楽しめるチョコなど日本にこだわっています。「ショコラ菓房　牟尼庵（⑥）」、茶や日本酒などを練りこんだトリュフのチョコラトリーです。チョコレートのお店も京都ならではの味を売りにしています。

食いしん坊なので食べるものばかりの紹介になりました。それ以外に和紙のお店、筆の専門店、数珠、印鑑、など歩いてみるといろんなお店があります。どうぞ歩いて京都の街を楽しんでくださいませ。

グランディール 御池店

京都市中京区寺町御池上ル上本能寺前町 480-2
営業時間／ 8:00～19:00　定休日／年始
電話／ 075-231-1537

京都ホテルオークラから歩いてわずか 3 分のパン屋さん。常時 140～160 種ものパンが代わる代わる店頭に並び、お気に入りのパンを目掛けて、客足も終日絶えることがありません。バニラビーンズをふんだんに使ったカスタードクリームには自身アリとのことなので、ぜひお買い求めになってはいかがでしょう。注文後に焼き上げてくれるパニーニも人気の品です。

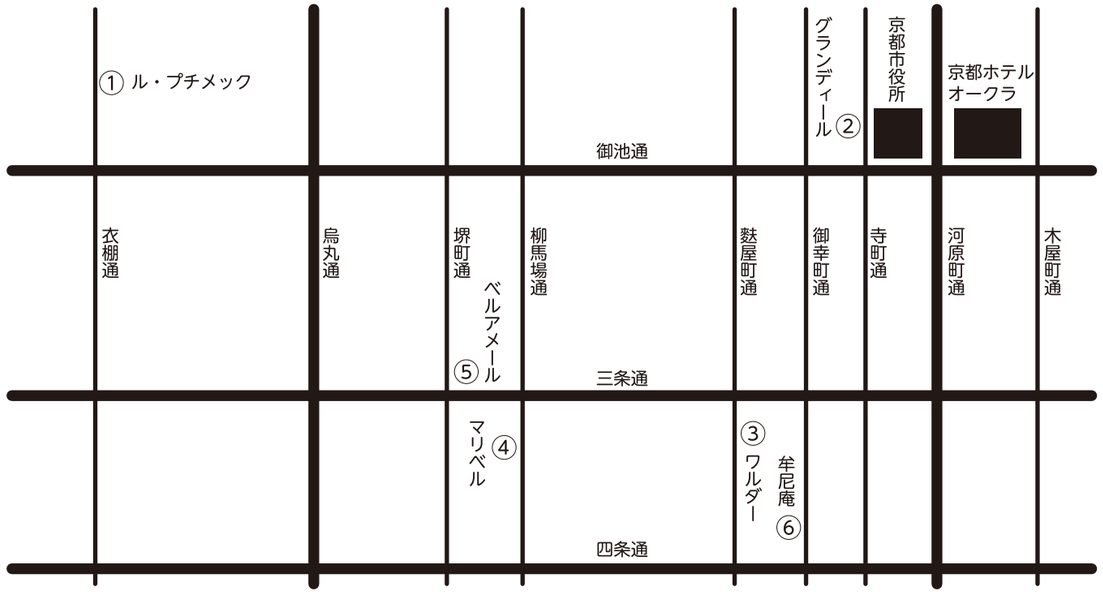
手前から時計回りに、カプレーゼ 430 円、黄金のメロンパン 160 円、ノア アンド エラーブル 180 円

ショコラ菓房 牟尼庵（むにあん）

京都市中京区御幸町通四条上ル大日町 416-5
営業時間／ 11:00～18:00　定休日／水曜
電話／ 075-256-0200

100 年以上の歴史を誇るお庭を眺めながら、独自の技術を最高の素材から作られるチョコレートを贅沢に味わうことができます。京都の文化を大切にしつつも、フランス人から伝授されたショコラトリュフのレシピをオリジナル性豊かに昇華。贈答品としても人気が高く、お医者様のお客さんも多いとのことです。御幸町通から少し路地を入るという、ワクワクする立地も楽しみのひとつ。

牟尼庵トリュフは 1 個 476 円。抹茶 / ほうじ茶 / 甘緑茶 / ノワール / ピスタチオ / ビター / 琥珀 / 雪 / 翠の 9 種



祝・卒業

平成27年度
卒業証書・学位記授与式

今年の卒業式・学位記授与式は平成28年3月4日（金）12時より高槻現代劇場中ホールにて行われました。

まず、第1部として65期の医学部97名と学部3期生となる看護学部85名の合同卒業式が行われました。学長の告辞に続き、来賓代表として仁泉会河野理事長の祝辞、在校生送辞、卒業生答辞が述べられ、医学部学長賞、看護学部学長賞の褒賞授与が行われました。

第 2 部の学位記授与式は各学部に分かれて執り行われ、医学部長が卒業者全員に卒業証書を餞の言葉とともに手渡し、式辞を述べられました。その後、医学教育センター長・医学学生生活支援センター長賞及び仁泉会理事長賞の表彰、恒例のスライドショーが行われ、滞りなく第65回卒業式が終了しました。

尚、今年の仁泉会理事長賞は井上汐里さんが受賞されました。

以下にご挨拶要旨を掲載します。

学長告辞

大阪医科大学学長　大槻勝紀

大阪医科大学医学部医学科第 65 期生 97 名並びに看護学部看護学科第3期生 85名の皆様ご卒業おめでとうございます。またご臨席賜りました保護者の皆様、心よりご子息、ご令嬢のご卒業をお喜び申し上げます。大学にとりまして、卒業式は学位記を授与し、卒業生がそれを拠り所に、実社会に船出する大切な学事であります。

本日は関西医科大学 学長 友田幸一先生、大阪薬科大学 理事長 浜岡純治先生、学長 政田幹夫先生をはじめ、ご列席いただいています御来賓の各位に教職員並びに卒業生を代表いたしまして、厚くお礼申し上げます。

また中山国際医学医療交流センターを介して、現在本学で研修中の韓国カソリック大学の 6年生の皆様をご紹介させていただきます。

Now, I would like to introduce our gest students of Catholic University from Korea, Mr. キム Kim セ Se ジュン Joon, Ms. ナ Na ジェウォン Jaewon, Ms. ジャン Jang ウンジュ Eunju and Ms. リー Lee ジェユーン Jaeyoon. Thank you for your attendance at our graduation ceremony of Osaka Medical College on this memorable day.

卒業生諸君は、この学び舎で 4 年ないし 6 年間過ごされ、知識や技術だけでなくこれからの人生を送っていくうえで、かけがえのない友人や先生方との出会いがあったことと思います。オープンキャンパスなどでお手伝いいただいた卒業生諸君とは大学生活のこと、大学への思いなどについてお話をすることがありました。「大医が好きやねん。」といった言葉を何度聞いたことでしょう。このような自由な学風をはぐくみ、教育環境整備の充実にご協力いただきました保護者、教職員、法人の皆様方に深く感謝いたします。

これまで教育の立場で、卒業生諸君と身近に接してきた一先輩として、医療人としての心構えについて二つのことを申し上げたいと思います。

一つ目は「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」です。多くの卒業生諸君は、国家試験に合格されると、医師、看護師として生涯の道を歩まれることになります。社会に出て経験を重ねていくといずれ医療の要職につく方も多いことでしょう。社会人になると「個の力」では到底解決しようもない状況をこれからたくさん経験していくことになります。学生時代なら意見が異なる相手を避け、気の合う仲間とだけ付き合っていけば済むのですが、社会人として「チーム」で行動する場合にはそうはいきません。

いずれにしても「チーム」を構成するのは、異なった立場で、異なった意見の持った「個」の集団です。チームを引っ張るには優秀なリーダーが必要です。ではリーダーの条件とはなんでしょうか。昨今、リーダー論に関する本が書店にあふれていますが、それを読んだからといってリーダーになれるわけではありません。また誰もがリーダーになりたがるような組織は機能不全に陥り壊れます。一つの事業を成し遂げるには黒子や脇役のようなフォロワーが必要です。リーダーの条件とは「考えがぶれない」、「統率力がある」、「他人の意見をよく聴く」などあげられるかもしれません。

リーダーシップについてパナソニックの創業者、松下幸之助さんが自社の管理職員の前で話された言葉が残っています。リーダーの性格として「愛嬌」、「強い運」と「後姿」という、意外な三つを挙げています。理由はあえて説明せずに話されていますが、私なりに解釈しますと「愛嬌」のある人は周りをリラックスさせるが、どこか心配で自分たちがしっかり守っていかなくてはと思わせます。「強い運」の持ち主を見ると、この人についていけば何とかなるといった安心感とともに、チャレンジする勇気が湧いてきます。また「後ろ姿」にひかれる人物には、前例を踏襲せず、自ら道を切り開く強い行動力を感じ、次に何を行おうとしているのか、何にこだわっているのか、つい考えさせられます。リーダーとは周りの人すなわちフォロワーを受け身から能動的に変えてしまう人かもしれません。ですから良い組織には、リーダーの指示を待つのではなく、一人一人が自分の頭で考え、行動できるフォロワーが必ずいます。またテーマにより誰もが時にリーダーに押され、時に one of them のフォロワーになるような組織が理想かもしれません。すなわちリーダーがいなくてもよい組織を作れるのが真のリーダーであると思います。

二つ目は「ぶれない」です。卒業生諸君の中には私のように教育者や研究者としての道を歩む方がいるかもしれません。大学に残り、研究を一生の糧とする時、どのような研究テーマを選ぶべきか思い悩む時が来ます。指導者からテーマを与えられたからといって、それで一生、研究を続けることができる訳ではありません。研究者は自分自身の研究テーマを考えるときに必ず壁にぶち当たります。研究者にとってその壁は途轍もなく高く、高ければ高いほど超えた時の達成感には素晴らしいものがあります。壁を超えるためには、若い時にどれだけ多く医療現場で経験を積んできたか、自分を感化あるいは感動させるような書物をどれだけ多く読んできたか、また研究活動において疑問に思うことを深く掘り下げどれだけ長く考え悩み続けてきたかが重要です。研究テーマ探しに真剣にもだえ苦しむ間、あまり関係ないと思っていたことが点から線となり、ある時にひらめきとなり急に視野が開けます。いったん壁を乗り越えると面白いぐらいに次から次へと研究テーマが沸いてくるものです。私の好きな画家に平山郁夫画伯がいます。皆様も「シルクロード」といえば知っている方も多いことでしょう。彼は広島で生まれ、15 歳のとき、広島で被爆されています。画家を目指して、現在の東京芸術大学に入学し、卒業後も東京芸大の助手を務めていました。30 歳の頃、原爆後遺症に見舞われました。当時、生家が借金を抱えて経済的にも窮し、その上、画業の面でも大きな壁にぶち当たっていました。そのとき、彼が思ったことは「妻も子もいる。まだ死ねない。たとえ死んだとしてもこれが平山郁夫の絵だという作品を一枚でもいいから残しておきたい。自分が生きてきた証を描いてから死にたい。」と述べています。そのとき、彼は、死を覚悟して学生を引率して八甲田山へスケッチ旅行に行き、その後、彼は日展で高く評価された「仏教伝来」を発表し、画家としての確固たる地位を築きました。それを契機に、シルクロードを彼の生涯のテーマとされました。彼は言っています。「先が見えなくても、また、目標がまだわからなくても、とにかく止まってはいけない。いつかは報われる時が来る。そう信じて歩き続ければ、人生は扉を開いてくれる。」と。このことは画家だけでなく、

大槻勝紀学長

これから医療人として社会に踏み出されていく皆さんにとっても同様で、「ぶれない自分」を作ることがとても重要だと思います。

最後になりますが、本学は来年創立 90 周年を迎えます。本年 4 月には中央手術棟のオープンや関西 BNCT 医療センターの建設、創立 100 周年に向けての本棟の建て替え事業と、ハード面での整備が予定されています。また教育研究面におきましては、4 月には大阪薬科大学との法人合併を踏まえ、アカデミアとして世界有数の医療系大学を目指すことになります。卒業生の皆様にとりまして、卒業後のキャリアパスの形成において是非とも卒後臨床研修医や看護師あるいは大学院生として戻ってきて頂くことを心よりお待ちしています。皆様が医師、看護師として社会の医療や福祉の担い手として成長され、社会に貢献されることを期待し、医学部医学科第 65 期生、看護学部看護学科第 3 期生の旅立ちに際しての学長告辞といたします。

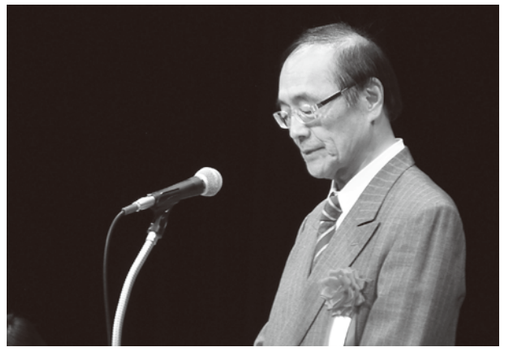
祝辞

一般社団法人大阪医科大学
仁泉会理事長
大阪医科大学名誉教授　河野公一

第 65 期医学部学生の皆様、本日はご卒業まことにおめでとうございます。また本日ご臨席いただいております、ご両親をはじめご家族の皆様には感慨ひとしおのことと存じます。心からお慶び申し上げます。さらに本日まで卒業生の皆様をご指導され、薫陶を賜りました本学教職員並びに関係各位に対しましても、お祝いともに厚く御礼申し上げます。

医学部卒業生の皆様は本日から、大阪医科大学仁泉会（すなわち同窓会）会員であります。本法人は 1927 年創立の大阪高等医学専門学校及び大阪医科大学卒業生で構成され医学部 65 期の皆様 97 名を新たに加えますと 9248 名を数えます。

仁泉会の活動は会員の福利厚生を主たる目的として、情報共有のための定期的な会員名簿や会報の発行、同期会や全国・海外での支部会開催の援助、本学医学部学生への奨学金貸与、学園祭や西医体への支援、本学教員をはじめ仁泉会員が主催する国際学会や全国的な学会への助成など様々な分野に及んでいます。



河野公一理事長

卒業生の皆様にはぜひその趣旨をご理解いただき、将来にわたり仁泉会の活動を支えてください。

さて卒業生の皆様は、今日から大阪医科大学で学んだ医学における知識をベースに更なる研修を経て、医療、教育・研究の道を歩まれることになりますが、その目標はただ一点にあります。それは「生の尊厳」であります。私の尊敬する先人の一人ウイリアム・オスラー博士（彼は米国ペンシルバニア大学を隆盛に導き、ジョンス・ホプキンス大学医学部の礎を築いた人ですが）は患者を自身の家族と同じように心から愛し、大切にする、「人道主義の心」を医学の中に導入した最初の医師であります。

また私が敬愛する恩師の一人であり、留学先の英国ロンドン大学公衆衛生大学院・同産業医学研究所所長のリチャード・シリング教授の言葉「職業病はすべて環境要因のなせる業であり、故に予防に勝る治療はない」が私のその後の進むべき道を決定づけたといっても過言ではありません。

卒業生の皆様がこれから進まれる道は多様であり、それぞれの場で積まれる経験や知識が新たな医学の進歩に、またこれら先人の説く「生の尊厳」につながるものと信じています。

あらためまして、卒業生の皆様の前途を祝福しますとともに、ご家族の弥栄（いやさか）をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

医学部長式辞

大阪医科大学医学部長　大槻勝紀

平成27年度医学部医学科第65期生の卒業生の皆様、改めてご卒業おめでとうございます。諸君にとって在学された少なくとも6年の間で、医師として必要な知識、技能、態度を受容されてきました。その間、温かく彼らを支えてこられた保護者の皆様に心から敬意を表したいと思います。またご列席の来賓各位に本学医学部を代表して厚くお礼申し上げます。

昨年4月に文部科学省から学校教育法の一部改正に伴い、学長は入学、進級および卒業の判定を厳格に行うように求められています。学長に就任したのが6月で、すでに後期試験が始まる直前の学長交代であったため、諸君と親しくお話しする機会が無いまま、学長として初めて卒業判定を行うことになりました。2年生の時に肉眼解剖学実習で学生諸君に知識以外に態度教育を厳しく指導してきました。長らく教授を務めてきた関係で、本学学生の学力の変化について人よりは敏感に感じてきました。成績下位者のレベルが最近特に低下していることを痛感しています。その理由として三つのことが挙げられます。一つは3年生から始まる PBL です。PBL の長所である問題解決型能力を高めるための自学自習時間の活用を一部の学生がはき違え、安きに流れた学生が増加したこと、二つ目はつい最近まで5年生に進級試験を課さずにいたため、他大学の学生に比べて、学修時間が単純に不足したことがあげられます。三つ目は、これまで卒業判定が教授会で行われてきたことです。教授会において、「自由な学風」の名の下に、余程のことがない限り学業成績に目をつぶり、ほぼ全員を卒業させてきた嫌いがありました。学長の立場で今年度初めて卒業者を決定しました。7名の原級留置者を決定したわけですが、その基準は60点未満を不可とするといった学則を遵守することしか方法はありませんでした。医師国家試験の結果が悪いと、これまで学長は様々なところからご心配お小言をいただいたことにより、十分に学生との対話なしに、その時点で考えられる限りの策を応急処置として施してきました。教師としての大人が考えた国試対策が、果たして子としての学生にとってどのように受け止められていたのでしょうか。医師国家試験後の2月12日に6名の6年生と5名の5年生に集まっていただき、6年生から今年の国試対策についての意見をお聞きしました。卒業が決定し、大学からのプレッシャーがなくなったからかもしれませんが、6年生は5年生や教員に多くのメッセージを残していただきました。例えば、後期試験を各科試験ではなく、PBL のようにコース別で行うこと、マイナー科の試験をもう少し詰めて卒業試験実施期間を短縮することなど貴重なご意見を伺うことができました。今後の国試対策に是非、活かしていきたいと考えています。

話題を少し変え、「座右の銘」についてお話をしたいと思います。以前、あなたの座右の銘は何ですかと尋ねられたことがありました。偉人の言葉を座右の銘にする人は偉人の生きざまに感銘を受け、大切にその人の人生の範としていると思います。偉人に近づくことを目標として「座右の銘」を持つことは素晴らしいことですが、かえって自分自身を縛り付けはしまいかと感じます。今まで自らが大切に考えていたことや経験してきたことから生まれてくる言葉が「座右の銘」ではないかと思っています。「死ぬほど勉強して死んだ者はいない。」とお答えしました。私の尊敬する人に塩崎　均先生という方がいまして、現在、近畿大学学長としてご活躍されておられます。自らの病を通して至った境地から生まれた言葉が、彼の著書「天を敬い、人を愛し、医に生きる」のタイトルに込められ、その言葉が彼の座右の銘と言えましょう。「天のもとには医者も一人の人間であり、人生を生ききるお手伝いをするのが医者の役割である。それが天を敬うことであり、同時に人を愛することである。武士道にあるような死に様の手伝いをするのでなく、生き様の最期を手伝うのが外科医に与えられた使命だ」と述べ、それはちょうど西郷隆盛の座右の銘「敬天愛人」に通じると書かれています。本学の歴史を振り返ってみますと初代校長から三代目校長まで座右の銘が残されています。初代校長の足立文太郎先生（解剖学教授）は「懸命不動」を、二代目校長戸田正三先生（衛生学教授）は「身康則神明」を、三代目校長　松本信一先生（皮膚泌尿器科学教授）は「学を離れて医はなし」をモットーにされていました。いずれも本学の建学の精神に基づき作られたのではないかと想像されます。皆さんは「本学の建学の精神」をご存知でしょうか。来年、創立90周年を迎える本学において、学生、教職員をはじめとする多くのステークホルダーが共有する「建学の精神」といったものはあってもあまり知られていません。先ほどご紹介しました3名の校長の「座右の銘」が時には「建学の精神」として使われてきました。学歌にはゴビの原、アマゾンといった地名が謳われています。昭和2年に本学が創立されましたが、中国やブラジルの移民団への医師派遣が「建学の精神」と深く関わっています。この精神は中山国際医学医療交流センターを中心とした学生や研究者の交流あるいは兵庫県、高知県への医師派遣プロジェクトや東日本大震災での救援活動など社会・地域貢献活動へと受け継がれています。そのため「国内外を問わず活躍できる、臨床力を備え研究にも秀でたよき医療人を育成すること」が「本学の建学の精神」に近いものと考えられます。

最後になりましたが、あなた方は将来の医師像といったものを「夢」として描いているかもしれません。「夢」と「志」とは意味が異なります。「志」には将来に対する希望や願望をかなえようとする強い決意が込められています。4 年生の時に不慮の事故で他界された森　太郎君のご両親からの思いも込めて、あなた方の持つ「夢」を「志」として実現していかれることを祈念して医学部長の式辞といたします。卒業おめでとう。

仁泉会理事長賞 受賞者

井上汐里さん

おめでとうございます！

第65回 卒業者氏名

青木一晃	岡部 悟	阪上正英	中西健輔	三宅崇人
朝井まどか	岡本福子	坂口菜々子	浪方 悠	宗近明由香
浅野彰之	奥田聖瞳	佐々木 駿	西坂一馬	森永孝史
東 優希	乙丸一平	澤井大樹	沼本 諒	森山禎之
荒木祥太郎	梶浦晋司	重留一貴	野田知星	山浦鉄人
池田理子	柏井 彩	清水將智	白 健人	山本なぎさ
猪阪知子	柏木秀基	白木宏長	橋本卓哉	吉村亘平
石上健二郎	片山大資	白波瀬 愛	橋本 黎	米田結衣
石田貴裕	勝盛柚木子	神人 彪	畠中寿実	渡邉早紀
伊丹さやか	兼竹博文	菅田一貴	林 智子	
稲垣諒将	釜瀬貴之	杉本貴史	春名うらら	97 名
乾 百優	亀山はるか	鈴木啓祐	東田真美子	
井上汐里	河合淳一	太井義貴	廣川貴久	
今井智恵	蒲原明宏	髙島章伍	福田将大	
岩田翔太	北川綾香	竹井智彦	藤田慎二郎	
上迫隼太	木下博貴	竹村大輝	別所宏紀	
梅田千鶴	木本智子	田中 憲	保浦彩乃	
江本健一	久保元則	谷口賢哉	堀 章裕	
太田あかね	黒田亮介	塚本美輝	堀 弘樹	
太田千智	越田裕一郎	永井 駿	牧 亨	
大西佑実	後藤祐子	中島久留望	眞野 翔	
大橋剛輝	小山 峻	長嶋泰志	水谷 亮	

事業報告 学生生活虎の巻 その壱

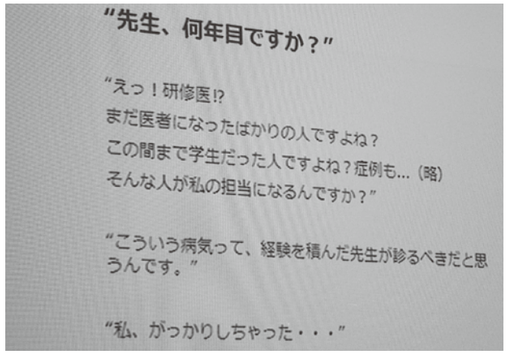
若手の先生と学生の交流の場が設けられました！　後編

昨年 11 月 21 日（土）、現役学生からの提案で、6 年生や卒業間もない先生と、学業に励む学生との交流会「学生生活虎の巻」が開催されました。卒業してから苦労しないために、どのような学生生活を過ごすべきなのか、先輩から後輩へ貴重なメッセージが届けられました。（文中敬称略）

プレゼンター／巽 尚子先生（学63期）

大阪から出たことがない バリバリの関西人です

大阪市立大学医学部附属病院で研修を始めて１年目の巽と申します。まず自己紹介から入らせて頂きます。四天王寺高校卒業し、2009 年に大阪医科大学に入学。部活はアルペン部と ESS、国際交流、茶道部に所属していました。４年生時には茶道部の主将も務めさせてもらいました。2015 年に大阪医大を卒業して、何とか国家試験も合格できて、市大で研修中です。さて本題に移らせて頂きます。学生生活で何を得るかという事です。私自身も去年までは学生だったので、医者としてはまだまだ赤ちゃんのようなものですが、そんな自分自身が働き出して感じた事や学生生活の中でやってて良かった事、逆にやっておけば良かったなと思う事を中心にお話しします。



ストレスの解消法を 見つけておきましょう

一つ目はメンタルについてです。働き出してからプレッシャーにさらされる機会が多くなったと感じています。そういったプレッシャーやストレスに潰されないために、自分なりの解消法や打ち込める事を今のうちから見つけておくと良いんじゃないかと思います。残業時間が長いほど、うつになりやすい傾向がありますし、上手にストレスを発散する方法を今のうちから見つけておくといいですね。同期の中で、私だけ何もできないって思ったり、自分だけ取り残されてるんじゃないかって焦りを感じる事もあります。そんな時は自分なりの目標を作るようにしています。例えば今週はこの本を読んでみようとか、そんな自分なりの小さな目標を作る習慣を作っておくと、研修にも集中できるんじゃないかと思います。

次にコミュニケーションについてです。私は今まではコミュニケーション能力ってどんな人とでも上手に会話できるような能力って思っていましたがちょっと違うなという体験をしました。入院初日に担当になった患者さんに挨拶に行った時のことです。患者さんに「先生は何年目ですか？」と聞かれて、１年目の研修医ですと答えました。すると患者さんは「え？ この間まで学生だった人ですよね。症例も全然経験してないんですよね。そんな人が私の担当になるんですか？ 私がっかりしちゃった」と言われてしまったんです。この時、正直返す言葉が見つからなくて黙りこんでしまったんですね。じゃあどうすれば良かったのかって考えてみました。その患者さんはうつ病だったのですが、すごく辛いんですよね。だから「あなたは本当に私を救えるんですか？」という不安の裏返しだったと思うんです。あなたにもそういう不安な気持ちを味わわせたいという、嫌なことに対する心の防御反応みたいな言葉なのかもしれないと思いました。そういう事を想像す

る力があれば、もっと上手な返し方ができたかもしれないと思います。この経験を通じて、コミュニケーション能力というのはどんな人とでも会話ができる能力ということだけではなく、相手が今どんな気持ちで話しているのか、またどんなことを考えているのかということを想像できる力のことではないかと思うようになりました。これは患者さんとだけではなく、同僚や上の先生方とスムーズな関係を持つ意味でもすごく重要な力です。100 人いれば 100 通りの考え方があると思うので、コミュニケーション能力を養うためにはできるだいろんな人と話をして、いろんな考え方がある事を学ぶのが大切なのかなと思います。学生生活で自由な時間があるうちにできるだけいろんな人と話してみて下さい。できれば医学部の中だけではなくて、外の世界も知って欲しいと思います。外の世界で相談できるような友達を作っておくと人脈も広がって良いと思います。働き出してからは自分の仕事のことばかりに必死になって、人と出会う機会が格段に減ります。ですので、学生のうちからいろんな人と接する機会を持っておくと良いと思います。例えば、今日飲みに行こうって誘われた時、急にはしんどいなとか、明日 1 限からだしなとか、もし知らん人ばっかりだったら緊張するなとか、迷う事があると思うんです。でも、迷ったときこそ行って下さい。迷ったらイエスでいきましょう。行った先にきっと何かあると思います。

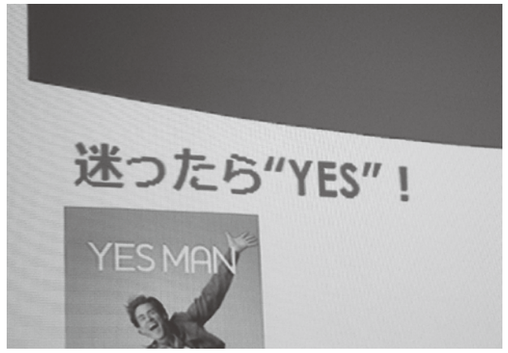
今のうちに いろんな体験を！

最後ですが、自分の武器を作ろうということです。学生生活の 6 年間で自分の一番強いことを見つけてほしいと思います。これだけは負けないとか、これは頑張ったって胸を張って言える事を一つ作っておいてほしいです。勉強のことだけではなく、趣味や特技などでもいいと思います。何か一つでもあればそれが話のきっかけにもなるし、マッチングの面接などでも使えると思います。私自身は、フットワークの軽さを武器にしています。

これは余談ですが、今のうちに手紙を書く練習をしておくと良いと思います。病院見学などで手紙を書く機会が増えている人もいると思いますが、メールなどではなく、あえてここぞという時は手紙を使ってみて下さい。手紙の方が感謝の気持ちなどが伝わりやすいと思いますし、貰った方も喜ばれるはずです。いざ書こうとすると面倒臭くなってしまうので、今のうちから練習しておくと良いんじゃないかなと思います。

それと、学生生活でやっておけば良かったなと思うのは、先生方と仲良くなる事。特に 1 年とか 2 年の各教科の先生方ともっと積極的にお話をしていろんな考え方を聞くようにしておけば良かったです。もう一つは語学の勉強。ハワイに留学させてもらったのが 3 年生の時でそれから 4 年生まではがんばって英語の勉強をしましたが、そこから英語に触れる機会少なくなってしまったので後悔しています。

最後になりますが、後輩の皆さんにメッセージです。学生生活は光陰矢の如しで、あっという間に終わってしまいました。ですから、まだ時間がある間にいろんな人と積極的に出会う機会を持って外の世界にも出て行ってほしいですし、自分の武器を見つけて有意義な学生生活を送ってほしいと思います。長期の旅行などにも行ってほしいですね。迷ったらイエスで！ ありがとうございました。



プレゼンター／重留一貴さん（6 年生）

中高のときは テニスを必死にやってました

6 年生の重留です。最初に自己紹介をしておきます。生まれは和泉市という南の方です。高校は府立三国ヶ丘高校で、そこでは中高 6 年間テニスをしていて、大阪総体のシングルスでベスト 64 に入りました。大学ではバスケ部に入って、今年の夏まで試合に出ていました。僕の話はこのくらいにして、今後輩に伝えたいことをいくつかお話します。

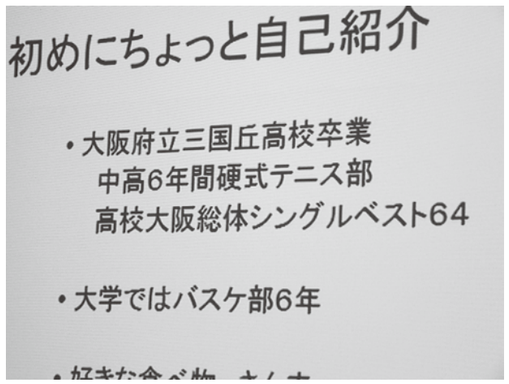
100% で 生きていますか？

まず最初に言いたいのは、皆さん 100％の力を使って生きていますか？ ということです。皆さん、勉強忙しいですよね。4 回生からは CBT があるので徹夜している人もいると思います。100％で生きるってすごく難しいですし、実際僕もできているかと言われればそうではないと思います。でも 6 年間って長いようで短いので、勉強はもちろん、部活でもバイトでも留学でも遊びでも恋愛でも何でも良いので、とにかく今本気で生きてほしいです。

僕が本気でがんばったのは部活です。その時の生活は、朝 9 時から PBL 行って授業受けて、部活を 17 時から 22 時までやって、23 時まで先輩とご飯食べて、そこから朝 5 時まで難波で飲んで、6 時に帰って来てシャワー浴びて、授業行って、その日もまた飲みに行ってしまうという感じでした。僕は結構それを必死でやってました。僕より遊んでる奴なんて絶対に大学にはいないと思いますし、それが僕の自信にもなっています。部活もそうですが、飲み会で上下関係を学ぶこともできます。医者の世界は特に上下社会が厳しいと思うので、部活や飲み会でも得るものは絶対あると思います。

遊びでも飲み会でも部活でも とにかく必死にやってほしい

次はバイトについてです。医大生は、時給が高い家庭教師のバイトをしている人が多いと思います。それは良いと思うんですけど、僕は面白くないなと思って、敢えて普通に時給 850 円とか 900 円のバイトを 4 年間続けていました。朝 5 時までやってるタイプの居酒屋でバイトをしていたのですが、店を閉めて、朝 6 時からバーベキューに行ったりボウリングして、昼夜逆転の生活をしていました。こういうバイトをしていると、他の大学の学生やフリーターの人もいて楽しかったですね。巽さんも言われてましたけど、外の世界にはいろんな人がいるので、自分たちだけの世界が全てとは思わずに是非いろんな人と交流して下さい。



2016 年 6 月 18 日に開催される
学生生活虎の巻 その２のポスター

僕はとにかく遊ぶことに必死でした。僕が言いたいのは、バイトして欲しいとか部活して欲しいとかではなくて、何でも良いから必死に 100% の力で頑張って下さいということです。

とにかく「今あなた本気ですか？」っていつ誰に言われても、「本気です！」って言える人生を送って下さい。どうもありがとうございました。

プレゼンター／村上 学先生（学 63 期）

睡眠時間が少なくても 充実の日々です

ご紹介に預かりました神戸市立医療センター中央市民病院初期研修医 1 年目の村上と申します。働き始めて、循環器系、救急、集中治療などがやりがいがあって面白いなと感じ始めたところです。今は総合診療科にいます。同期が 20 人でかなり多いのですが、和気あいあいと、時には激論を交わしながら働いています。まだ 6 ヶ月しか経っていませんが、三次救急などのかなり重症でも対応できるようになってきました。うちの病院はそのくらい症例数が多いです。診察や回診だけではなく、カンファレンスや先輩からの指導、事務作業、自分の勉強なんかもあるので、ゆっくり寝るという概念はなくなりました。

外部の人との出会いを大切にしてください

何事も、一つの出会いから道が拓いていきます。僕は ESS をやっていたんですが、ESS っていうのは大学内で完結していなくて、西日本全体で一つになって協議をしたりしています。僕はそこで役員をしていました。大学の友人がほとんどいない世界に飛び込むのは勇気がいりましたが、今となってはいろんな大学の学生と対等に議論ができて本当にかけがえのない出会いでした。それと、チーム関西という勉強会を運営していました。そこで日本全国から医学系の学生が 100 人以上集まって著名な先生を呼んで勉強会をするというイベントを運営しました。その原動力なったのも、やっぱり人との出会いという刺激でした。

授業や教科書だけじゃなくいろんな勉強を

二つ目ですが、知識を得ようとする姿勢が大事だということ。医療って迷路のようなものだと思うんです。この患者さんにとって一番幸せなことって何なんだろう？ 医療って何なんだろう？ そんなことを考える機会が医者になったらどんどんやってきます。しかもいきなりです。教科書で調べても載っていないような病気の人もいますし、日本に数人しかいない厚生労働省指定の難病の人も数多くやってきます。こういった治る可能性が極めて低い病気の場合、この患者さんにとって治療をすることが幸せなのかどうかとか悩むことがあります。例えば、高齢の方で誤嚥性肺炎で入退院を繰り返している患者さんがいます。治療はするんですが根本的な解決にならないです。肺炎を防ぐことだけを考えるなら胃ろうかご飯を食べないかということになってしまうのですが、胃ろうは、他の問題もありますし、患者さんのごはんを食べる価値観、QOL を損います。ごはんを食べないというのは死ぬということですから、医師としては選択はできません。こういう時に何が最善なのかなど悩みます。でもそういった難しい患者さんがいても、教科書に載っていることをただ勉強するだけじゃなくって、能動的にいろんな分野から勉強しようということが大事だと思っています。教科書に載っていないことはいっぱいあるので、学生時代に能動的に勉強をして知識を得て、困ったときの解決策を考えることを是非やってほしいと思います。僕ももっとやっておけば良かったと思っています。

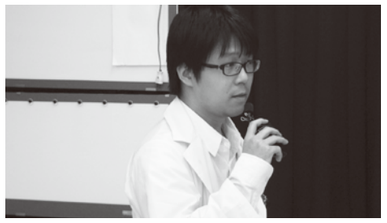
今現在の気持ちをいつまでも忘れずに

三つ目は医学生として医療を眺めようということです。どういうことかとかというと、寺澤秀一先生という日本の ER の神様みたいな方の著書にこんなことが書いてあります。骨折の急患がやってきたので、整形外科の先生を呼びました。するとその先生は「準備ができてないのに呼ぶんじゃないよ」と言ったそうです。レントゲン写真が用意できていなかったみたいで。皆さんこんな医者にはなりたくないですよね？ でもその先生は、つい半年前まで「救急の場合はすぐ呼んで下さい、僕を頼って下さい」って言っていたそうなんです。人は変わってしまうんです。そんな医者にならないって皆さんも絶対に思ってますよね。でも環境が違うと変わってしまうんです。

恥ずかしながら、僕もイライラすることがあります。

実習で出ている人は医療現場を見ていると思います。そのときは、医学生として医療現場を考えてみて下さい。こんな医者になりたくない、また、こんな医者になりたいなど、そういった感情をしっかり感じながら。いつか変わってしまいます。けど、今の気持ちを忘れないようにしてください。今の視点を忘れないようにしてください。

プレゼンター／ト部馨介先生（学 62 期）



先輩に怒られたことが今の自分を作ってくれました

こんにちは、大阪医大で研修２年目の ト部といいます。2007 年に奈良県の高校を卒業して、一浪して 2008 年に大阪医科大学に入学しました。高校 3 年の時に医者になろうと思ったんですが、そこから勉強しても間に合うはずもなく、一浪しました。そんなことも含めて、高校生活はだらだらとしていたのですがそれを後悔して、大学に入ってからは勉強も部活もいろいろやってみようと思いました。特に部活は、弓道部、グリー部、ESS などを掛け持ちしました。でもそのせいで、それぞれの部活に対して差し障りが出てきまして、同級生に怒られることがあったんですよね。それでも「忙しいねんからしゃーないやないけ」って開き直っていたんです。ところが先輩に呼び出されて、「ちょっと話聞けや」って言われました。「部活っていうのは社会に出る前の練習場みたいなもんや。部活で失敗するのは仕方ないけど、同じような失敗を社会に出てからしないように、ちゃんと反省して将来に活かさないと意味がない」と言われました。その言葉が胸に突き刺さって、反省しました。そんな体験を振り返って、大学生活の中で何を得たかと言う事に関してお話ししたいと思います。

怒られたときにどう考えるのか

まず、人との付き合い方に関してです。医学部って狭い世界ですし、上下関係はそのまま病院での上司と部下の関係に繋がります。ということは、学生の時から目上の人との付き合いはおろそかにできないなと思います。さっき話した部活で怒られた時も気まずくて居心地悪くなったこともありましたが、それを引きずってしまうと、将来的にマイナスにしかならないなと思い、自分なりに努力しました。やはり怒られたときに自分がどうふるまうか、どう受け止めるかが大事だと思います。社会に出てからも当然怒られる事はあります。やはり最初はイラっとしてしまうんです。ただそんな時は相手が何で怒っているのかということを冷静に考えるんです。そうすることで、自分のためにも相手のためにもなると思うんですよね。

処理能力を高めることで成長していけます

二つ目は時間の使い方の話です。最近後輩が言ってるんですけど、ちょっと試験あるから部活休みますとか、バイトあるから実習いけませんって言うんですね。試験もバイトも大事なのは分かります。でも簡単に逃げてしまうのはもったいないんじゃないかなと思います。しっかり計画を立てて勉強して、試験直前も部活に出て、なおかつ試験にも通れる事ができるようになって、ようやく処理能力っていうのが身に付くんじゃないかなと思います。最初は難しくて失敗する事もあると思うんです。でもそれは一つの経験。それを次に活かして、自分の処理能力をどんどん高めていくっていうのが大事だと思います。医者って忙しいので、そういった処理能力が大事になってくると思います。

後輩たちに今の自分を還元したい

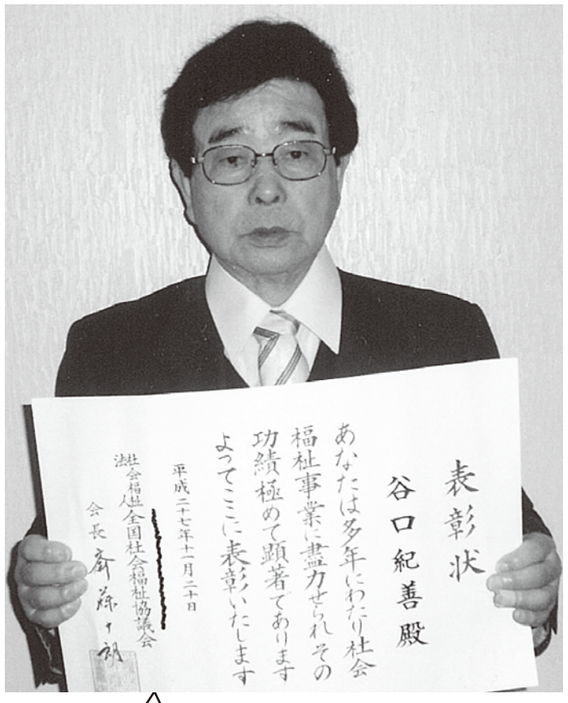
学生生活で得られるものって人それぞれですけど、自分の中で何が大事かということをしっかり考えて、それを一つでもやり遂げてくれたらいいと思います。最後に一つだけ。先輩から言われた言葉で心に残ってることがあって、お世話になった先輩にお礼を言いに行った時に言われたんですが、「俺に対して感謝するのであれば俺に返さんでいいから、それを後輩に還元してやってくれ」と言われました。それを思ったからこそ、今回も参加させて頂いています。僕の今の話を聞いて、何か一つでも感銘を受けたことがあるのなら、それを後輩たちに還元してほしいなと思います。

受賞報告

祝・受賞！

学部15期　谷口紀善先生

兵庫県知事表彰（平成23年度）
全国社会福祉協議会長表彰（平成27年度）



ご略歴

ご卒業後耳鼻咽喉科教室に入局されました。さらに大学院に進学され、「痛みのメカニズム」を研究テーマに、麻酔科の兵頭正義教授のもとで針麻酔や全身麻酔、挿管、気管切開、星状神経節ブロックなどを行われ、博士号を受領されました。助手、講師となり、更にその後非常勤講師として週に一度大学で学生に講義を行いながら伊丹で開業されました。伊丹市医師会理事、県代議員委員、税務担当理事などを約25年にわたり歴任され、平成 22 年～25年は市教育委員でもあられました。社会福祉協議会では現在も理事として活動され、高齢化社会問題、介護問題などに対して積極的取り組みを行っておられます。

谷口先生のお言葉

平成27年11 月 20 日に全国社会福祉協議会からの授賞を受けて参りました。表彰状及び銀で作られた大きなメダルが桐箱に収められ、メダルには輝かしい日輪（日本国）を背景に、双翼（包容）を広げて飛翔（活動、功労者）する鳩を配し、社会福祉の精神を象徴してありました。高齢者たちに快適な人生を送っていただくために、更なる努力を続けていく所存です。又今後、健康寿命の高齢者を 1 人でも多くするよう、指導やケアを行っていく次第です。

各地で喜びの受章・受賞等あれば、事務局宛書面、新聞などをお送りくださるか、
原稿をお届ください。
本誌にて広く紹介させていただきます。

学会報告

第29回 近畿小児科学会を開催して

文責／玉井 浩（学28期）

平成 28 年 3 月 6 日、大阪国際交流センターにて第29回近畿小児科学会を開催いたしました。155の一般演題が発表され800余名もの多くの先生方に参加していただき、非常に活気にあふれた学会となりました。これもひとえに大阪医科大学小児科の同門の先生方をはじめとする大阪医科大学仁泉会の諸先生方のご支援とご高配の賜物と感謝を申し上げます。

本学会は本学小児科の名誉教授であり私の恩師でもあります美濃 真先生が昭和63年に第 1 回大会を本学講堂にて開催され、以後近畿圏の小児科医が一堂に会する重要な情報交換の場として発展してまいりました。私が開催させていただくのも平成15年の第16回大会に引き続き 2 度目となります。本学会は毎年、春の訪れを実感できる 3 月に開催されますが、例年、春を通り越して夏をも思わせるほどの熱気のある活発な議論が繰り広げられます。

今回の学術集会では、専門医制度が新制度に移行する前年ということもあり、移行する際に必須とされる認定講習会の主要テーマである「医療安全」「感染制御」「医療倫理」を題材として 3 人の先生方に教育講演をお願いいたしました。

「医療安全」については日本小児科学会、日本小児麻酔学会、日本小児放射線学会合同の「MRI 検査時の鎮静に関する共同提言」を作成された主要メンバーである、河北総合病院小児科の勝盛宏先生に「『MRI 検査時の鎮静に関する共同宣言』を通して考える医療安全」と題して、「感染制御」については感染症のエキスパートで HHV7 の発見に大きく貢献された国立感染症研究所感染症疫学センターの多屋馨子先生に「ワクチンで予防可能な疾患の発生動向と医療関連感染対策としてのワクチン」と題して、「医療倫理」につきましては、新生児医療の発展の中でグリーフケアも含め、医療倫理に造詣の深い大阪発達総合療育センターの船戸正久先生に「医療現場における倫理的ジレンマ―臨床倫理の基本的考え方」と題してご講演いただきました。いずれの会場も狭すぎると感じるほど多くの先生方に参加していただき、活発な議論が交わされていました。

一般演題では大学および関連病院より 26 演題の発表があり、その中には 7 名の初期臨床研修医の先生 {長江亮太先生（学 63 期）、杉本亮先生（平成 27 年 大阪市立大学卒）、河村佑太

朗先生（学 63 期）、藤井裕子先生（学 63 期）、難波昂宏先生（学64期）、中村恵理子先生（平成 26 年 高知大学卒）、松田卓也先生（平成 26 年金沢医科大学卒）｝の演題も含まれていました。これら多くの若手の先生方が学会発表する姿は非常に頼もしいものであり、母校の更なる発展を確信するものでした。

また、本学小児科同門で仁泉会会員である福田弥一郎先生（学33期）、川崎康寛先生（学 35 期）にも一般演題で発表していただきました。両先生をはじめ多くの同門、仁泉会の諸先輩方にお会いでき非常に懐かしく、昔話に花が咲きました。今回の学会が無事に開催できましたのも、本学小児科同門の先生方をはじめ仁泉会の諸先生方のご指導、御支援のおかげであり、医局員一同深く感謝を申し上げます。

末筆ではございますが、学会盛会の御礼を申し上げますとともに、大阪医科大学同窓会である仁泉会のさらなるご発展を祈念し、学会報告とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

お詫びと訂正

平成28年3月1日発行仁泉会ニュース
第47巻第2号に誤りがございました。
大変申し訳ございません。
誌面をお借りしてお詫び申し上げます
とともに訂正させていただきます。

２頁（目次 リレーエッセイ著者のお名前）
上から 28 行目

誤　森川浩史（学36期）

↓

正　森川浩志（学36期）

２６頁（「第８回板谷外科の会報告」
参加者のお名前）下から２行目

誤　阪口晶子（学 21 期）

↓

正　阪口昌子（学 21 期）

支部だより●●••

報告　京都仁泉会学術講演会
平成 28 年 2 月 6 日
於：京都ホテルオークラ

文責／寺村和久（学 37 期）

先日、2 月 6 日、京都ホテルオークラにて京都仁泉会学術講演会が開かれました。

水谷 均先生が司会をされ、曾我部俊大会長の挨拶。その後私が座長となり学術講演が始まりました。今回は、大阪医科大学内科学 1 講座リウマチ･膠原病内科教授　槙野茂樹先生より、「膠原病と私」のテーマで御講演を賜りました。

槙野先生はは京都大学理学部卒業後、1977 年に大阪医大に入学。1983 年に卒業後は大阪医大 1 内科に入局され、1987 年に京都大学免疫研究所で研究をされ 1988 年に帰局後、膠原病内科を立ち上げられました。最初に所属された呼吸器内科での間質性肺炎での研究、CNS ループスの症例との出会いが膠原病に興味をもたれたきっかけとなったとのことでした。膠原病の講演は非常にわかりやすく、まず、膠原病は 6 群あること、特徴的な徴候があることからお教え頂きました。6 群とは、1. 全身性エリテマトーデス（SLE）2. 関節リウマチ（RA）3. 強皮症群（強皮症 SSｃ、混合性結合組織病 MCTD）4. 皮膚筋炎／多発性筋炎（DM／PM）4. 血管炎群（大動脈炎症候群､側頭動脈炎､川崎病、多発性動脈炎 PN、ウェーゲナー肉芽腫症、アレルギー性肉芽腫症血管炎（AGA)、顕微鏡的多発血管炎（MPA)、シェンライン－ヘノッホ紫斑病（HSP）6. シェーグレン症候群（SS、ＳｊＳ)。また、膠原病に特徴的な症候は、1. 関節病変 2. 皮膚粘膜病変 3. 原因不明の発熱 4. レイノー症状 5. 光線過敏 6. 抗核抗体陽性である。膠原病の病型として､急性型か慢性型か､罹患臓器が多臓器にわたるか限定されるか、それにより治療法もある程度わけることができる。タイプ 1A（多臓器、急性）：SLE は免疫抑制が主。タイプ 1B（多臓器、急性）：血管炎は免疫抑制と抗炎症。タイプ 2（少臓器､急性）：皮膚筋炎／多発性筋炎は免疫抑制。タイプ 3A（少臓器、慢性）：関節リウマチは抗炎症 ± 免疫抑制。タイプ 3B（少臓器、慢性）：強皮症群、シェーグレン症候群は経過観察、といった形。我々開業医が膠原病を疑う際に良く測定するのは抗核抗体（ANA）だが、抗体価 40 倍の場合、健常人でも 31％の方は陽性になる。80 倍で 13％、160 倍になれば健常人の 5％の方しか陽性にならないことを頭に入れて結果を判断することになる。ある程度、膠原病の診断がついた際、膠原病専門医を受診して頂くかどうかは、疾患の種類により異なる。特に SLE は臓器障害の種類も多く生命にかかわることも多いため、SLE を疑えば全て膠原病内科へ紹介する必要がある。上記タイプ 1A、1B、2 といったいずれも急性型の疾患は膠原病内科へ紹介する必要があるが、タイプ 3A の関節リウマチやタイプ 3B の疾患は必ずしも膠原病内科でなくても良い。我々開業医が膠原病を疑う簡便なチェックポイントを教えていただいた。

問診事項	一般検査所見
レイノー症状	WBC 低値
多発関節痛	PLT 低値
発熱歴	タンパク尿
日光過敏	顆粒円柱
発疹歴	CK 高値
口内炎頻発	ANA 有意陽性
口渇	

なかなか膠原病内科の専門医がおられないのだが、大阪医大のリウマチ膠原病内科は院内に21名、外来でも紹介患者を十分受け入れることのできる体制を組んでいることから、遠慮せずに紹介して頂いて良いといった、開業医にとっては心強い助言を頂きました。

槇野教授のこのお話は、第一線の臨床の現場ですぐに役立つ御講演で、講演後の会員からの質問も多く、さらに知識が深まることとなりました。

講演会終了後、場所をかえての情報交換会では、水谷先生の司会のもと、多数の先生方が参加され、懇親会としてすごく盛り上がりました。各先生方のお話の中でも特に若手会員の参加が一番大事な課題であるという内容が聞かれました。

出席者名（27 名・敬称略）：上原従正（学 14 期）勘田紘一（学 15 期）今村喜久子（学 17 期）
竹内宏一（学 18 期）上原春男（学 21 期）舟木 亮（学 22 期）森本英夫（学 22 期）竹中 洋（学 23 期）
田代 博（学 23 期）西本 孝（学 23 期）森本博子（学 24 期）浅田修二（学 25 期）浅野明美（学 25 期）
多田秀樹（学 25 期）野田春夫（学 25 期）水谷 均（学 26 期）河合尚樹（学 27 期）曾我部俊大（学 27 期）
蘆田ひろみ（学 28 期）萩原暢子（学 28 期）寺崎敦子（学 32 期）寺崎充洋（学 33 期）戸田勝典（学 36 期）
寺村和久（学 37 期）野原丈裕（学 40 期）塩見聡史（学 44 期）　講師：槇野茂樹（学 32 期）

講師の槇野茂樹先生

支部だより●●••

仁泉会大阪市北区支部総会 開催結果報告書

文責／末澤慶昭（学19期）

平成 28 年 2 月 27 日（土）例年通り 2 月最終土曜日に大阪東急REIホテルで開催されました。

本年も河野公一仁泉会理事長をお迎えし、計 18 名の出席会員のもとでの開催でした。北区から他地区への異動や講演会や学会への出席等でスケジュールが合わず、欠席会員が目立ちました。

北区支部総会の開会宣言を皮切りに、学38期太田祥彦先生の会計報告に引き続き、河野理事長の御挨拶を頂きました。その中で昨年お聞かせいただいた大阪薬科大学との法人合併が平成28年4月1日の予定であること等々、母校が新しく魅力ある医療系学園へと発展しているという御報告をいただき、大変誇らしく感じました。

続いて学 12 期の中村滿次郎先生の乾杯の御発声で楽しい開宴となりました。一息ついたところで、出席者全員から近況の御報告をしていただき、病診連携、病々連携での情報交換も活発に行われ予定時間を超過し、記念撮影の後、次回、H29年2月 25 日（土）の再開を約し、散会となりました。本年は北区在住で阪大病院へ勤務しておられる会員の出席もありました。

前列左より　千福恵子（学 32 期）中村滿次郎（学 12 期）木村博子（学 16 期）
河野公一理事長（学 21 期）庄田裕紀子（学 38 期）中田幸子（学 39 期）
後列左より　古林光一（学 21 期）末澤慶昭（学19 期）久保光彦（学24 期）高木雄久（学39 期）
片岡晃哉（学26 期）太田祥彦（学38 期）孫田虎鉄（学 33 期）宮本信一（学33 期）
安田守孝（学34 期）本出 肇（学34 期）藤平隆宏（学44 期）忌部 実（学 25 期）　以上敬称略

支部だより

平成27年度
仁泉会茨木支部の近況と総会の報告

文責／井上俊宏（学43期）

昨年度より茨木支部会の役員は支部長：中島周三先生（学 32 期）、副支部長：宇野耕太郎先生（学27期）、幹事：井上隆先生（学30期）、会計：井上俊宏（学43期）と一新いたしました。また新たな制度として大阪医科大学卒業生のみではなく、他大学卒業後に大阪医科大学の医局に在籍され母校に尽力いただいた先生方を特別会員として御参加いただいております。特別会員の先生方に御参加して頂くことで医局時代の思い出話や現在の医療問題や我々の日常問題などより広く意見の交換ができ楽しいひと時を送ることができております。現在はまだ数名の特別会員の先生方の御参加ではありますが今後はより多くの御参加をお願いしたく思います。

平成 27 年度大阪医科大学仁泉会茨木支部総会は平成 28 年 2 月 6 日（土）に木曽路茨木店にて行いました。支部長中島周三先生より開会の御挨拶の後に亡くなられた 3 名の会員の先生方（澤孝一先生（学21期）・熊谷直樹先生（学 28 期）・真砂光宏先生（学 31 期））に対して特別会員の先生を併せ総 21 名の参加者全員で黙祷をささげました。続いて茨木市医師会長・大阪医科大学仁泉会理事：上野豊先生（学 27 期）より御挨拶をいただきました。母校と大阪薬科大学との併合により大阪医科薬科大学に名称変更される旨、高槻高校校舎の立て直し、中央手術棟の完成などの報告があり、年次報告を私、井上俊宏より行いました。

懇親会は学 6 期吉原正道先生より乾杯の御挨拶をいただき開催され、始終笑い声のあるにぎやかな会で和やかな時間を過ごしました。

3 列目左より　柚木孝仁（特別会員）西部俊三（学 28 期）根来信行（特別会員）平山公三（学 29 期）麻田邦夫（学 22 期）杉野正一（学 28 期）梅田達也（学 44 期）井上 隆（学 30 期）井上俊宏（学 43 期）
2 列目左より　前田眞知子（学 27 期）稲森耕平（学 19 期）宇野耕太郎（学 27 期）大森研史（特別会員）北 陸平（学 16 期）中島周三（学 32 期）
1 列目左より　秋岡 壽（学 12 期）辰見宣夫（学 11 期）上野 豊（学 27 期）吉原正道（学 6 期）夜久正治（学 10 期）藤本 昭（学 13 期）　以上敬称略

支部だより

平成28年仁泉会東大阪支部
年頭総会報告

文責／三宅直子（学28期）

仁泉会東大阪支部平成28年第1回総会が1月10日（日）帝国ホテル「なだ万」にて開催されました。年頭の総会は 1 月第 2 日曜日夜この場所でと決まっており今年は佐藤公彦先生（学 12 期）、金城武忠先生（学16期）、恒川恵治先生（学 17 期）、塩路清一先生（学 20 期）、大西洋一郎先生（学 25 期）、大西敦子先生（学40期）、三宅裕治、直子（学28期）の 8 人が集まりました。

まず支部長の大西洋一郎先生の司会にて総会が開かれ、大阪医大の経営状況、新しい手術場の事、BNCT の事などの報告がありました。そして佐藤先生より本日は新学長の大槻先生が来てくださるとの話があり、皆驚くと共に楽しみにお迎えしました。大槻先生は学 27 期で私より一年上の学年で学生時代からよく知っていましたし、少人数の内輪の会ということで楽しくお話させて頂き、とってもよかったです。学長は以前学生部長もされておられましたので入試の変革や最近の学生気質について教えて頂き、我々の頃とはまた違っていて興味深く聞かせて頂きました。悪性腫瘍をたたく BNCT センターの建設については大変ご苦労されながら推進されたとのお話も聞きました。あれやこれや話は尽きず宴は長時間続きました。仁泉会東大阪支部第 2 回総会はいつも 6 月第 2 日曜日京都で美味しい昼食の会を会員と家族で催されるとのお話をしたら、ぜひその時にも来ていただいて何かまとまった話をして頂こうということになりお開きとなりました。東大阪支部の皆様、美味しくて楽しい会ですので、是非お集まり下さい。大槻学長有難うございました。今後ともよろしくお願いいたします。

支部だより●●•

仁泉会神戸支部新年会

文責／中本博士（学 39 期）

平成 28 年 1 月30日（土）例年通り、1 月の最終土曜日に三宮のイタリア料理「アールヴァレンティーノ」で開かれました。インフルエンザが遅めの流行に入ったのに伴うキャンセルがあったものの、ほぼ例年並みの 30 人が出席されました。

増井先生の司会で、定刻の 18 時に始まりました。まず、安藤会長の挨拶と仁泉会本部報告がありました。今年の総会の日程、講演者の発表、来年の本部総会が 5 月28日（日）に神戸ポートピアホテルで開催されること、神戸支部総会も同日に行われること、今年の総会で神戸支部会長を変更することなどを話されました。日下県支部連合会長が今年の神戸支部総会の直前に県支部各代表との懇談の予定であると発表され、続いて乾杯の発声を機に宴会が始りました。昨年に続くイタリアンでの新年会になりましたが、美味しい料理とワインのおかげで良い雰囲気に盛り上がりました。恒例の全員スピーチで近況を確認し、終始和やかなまま最後の記念写真撮影でおひらきになりました。その後は、体力勝負の延長戦へと続いていきました。

出席者（敬称略）渡辺信治（学 9 期）江原英彦（学 11 期）福永 晶（学 14 期）谷尻 仁（学 15 期）
日下孝明（学 16 期）佐々木義信（学 16 期）北村純司（学 19 期）横山光昭（学 19 期）
安藤嗣彦（学 20 期）岩越一彦（学 22 期）西田靖彦（学 22 期）石原一秀（学 23 期）寺師克洋（学 23 期）
飯塚信行（学 24 期）森本義康（学 24 期）植坂俊郎（学 27 期）橋本 寛（学 27 期）浪方典宏（学 29 期）
増井裕嗣（学 29 期）森松伸一（学 29 期）郡山俊昭（学 30 期）高井 豊（学 30 期）山本訓也（学 30 期）
米田 豊（学 30 期）井尻慎一郎（学 31 期）岡本恭行（学 32 期）梅垣英次（学 35 期）白 鴻成（学 36 期）
中本博士（学 39 期）竹下 光（学 55 期）　以上 30 名

支部だより●●•

平成 27 年度仁泉会香川県支部総会のご報告

文責／安賀文俊（学 51 期）

仁泉会会員の先生方におかれましては、ますますご健勝でご活躍のことと、お慶び申し上げます。

去る 3 月12日、高松市内の料亭二蝶において、恒例となりました仁泉会香川県支部総会を開催しましたので、ご報告いたします。

伊達学幹事（学 31 期）の司会のもと始まった会では、まず平成 27 年10月 30 日に鬼籍に入られた中村信義先生（学 17 期）に、謹んで哀悼の意を表し全員で黙祷を捧げました。続いて、石田達也支部長（学 28 期）より、ご挨拶をいただきました。仁泉会総会の内容、仁泉会理事長に河野公一先生が再任されたこと、第 9 代学長の竹中洋先生が 6 年間の任期を無事終えられ、第 10 代学長に大槻勝紀先生が就任されたこと、大阪医科大学再開発の様子、学校法人高槻高等学校との法人合併、学校法人大阪薬科大学との法人合併などのご報告もいただきました。その後、庶務・会計の安賀文俊（学 51 期）より会計報告を行い、満場一致で承認されました。

堅苦しい儀式（？）は、ここまで。大西正則先生（学 12 期）のご発声による乾杯の後、楽しい遊宴が始まりました。文化庁の登録有形文化財に指定されている、数寄屋風の造りの建物にある大広間で、青春時代を送った高槻の思い出話から、最近の医療事情まで、時間を忘れて語り合いました。出席者全員の近況報告を兼ねたスピーチをお願いし、近況報告や学生時代の思い出をお話ししていただきました。最後に集合写真を撮影し、盛況の内にお開きとなりました。

今年度は、仁泉会香川県支部に、大森信介先生（学 53 期）、大北仁裕先生（学 54 期）、三浦歓之先生（学 54 期）の 3 名の新しい会員を迎えることができました。仁泉会香川県支部の平均年齢も少し若返り、これからますます支部会活動が盛んになると思い、出席者一同大変心強く感じました。

次回の、仁泉会香川県支部総会も、今回以上の参加者で更に盛り上がるように準備しようと思っております。

（最後列左から）伊達学（学 31 期）三浦歓之（学 54 期）小橋祐子（学 53 期）伊槻卓哉（学 48 期）
大森信介（学 53 期）塩見勝彦（学 34 期）大谷昌裕（学 40 期）
（中段左から）　後藤真樹（学 32 期）谷本佳貞（学 30 期）石田達也（学 28 期）堀井泰浩（学 37 期）
江原和男（学 27 期）武田智博（学 33 期）
（最前列左から）樫村雅典（学 29 期）石井宏典（学 13 期）大西正則（学 12 期）中野和男（学 19 期）安賀文俊（学 51 期）

支部だより●●••

平成28年
仁泉会高知県支部総会・新年会報告

文責／市原直子（学24期）

アッという間の一年。今年も１月30日（土）最も寒い時季に新年会を兼ねた総会が開催されました。いつになく定刻前に会場に着いた筆者ですが、すでに濱脇会長と土居先生が早々と着席されていました。高知の先生は意外とみんな紳士です。定刻に集まり、会長挨拶・会計報告に引き続き昨年秋、旭日双光章を受章（女性の健康を六十年見守り続けた功績）された今橋先生の乾杯の音頭で新年会･総会は始まりました。実は仁泉会の新年会・総会は毎年「つるはら」と決まっているはずが、今年は別の料亭。「どうして？ 仁泉会が浮気をするはずはないのに」。案の定、理由が分かりました。昨年、「つるはら」の亭主が他界。跡取りはいるものの継続を断念されたようです。「つるはら」のてっちり後の雑炊をいたく気に入っていた筆者としては残念至極ではありますが、ここ「希満里（けまり）」も一流料亭。ことに名物女将の仕切るおもてなしは土佐のはちきん（有力な説：きん○○を八つ手玉に取るくらいしっかり者の女性のこと）振りで有名です。ともかくほぼいつものメンバーが東から西からこの日とばかりに馳せ参じ、宴はいつしか重鎮から新人まで入り乱れどんどん盛り上がっていきました。幸い今年は物故者もなく、その上、学部 54 期高知県出身の新人竹中英喬先生と学部 60 期の木村祐介先生の入会と明るい年明けの総会となりました。ことに竹中先生はご実家の医院を継がれたと聞き、やっと定住した先生の二十年振り（学部34期の川田先生、楠瀬先生以来の出来事！！）の入会に興奮しました。かつては学部 30 期の前田 隆先生が最年少、強面のお顔付きに似合わず、ずっと一番下っ端でこき使われていました（自称です）が、川田先生の登場でその立場から脱却、その川田先生もやっと昇格。竹中先生、重たい先輩ばかりですが、よろしくお願いします。その重たい先輩は重鎮の先生方を除くと学部 21 期の近森正幸先生を筆頭にその後10年間に卒業した者ばかりです。あと十年も経てばみんな七十歳以上、二十年後は。まるで高知県医療の縮図です。宴の始めの会長挨拶もこの点を憂いた上で、将来を見越した医師派遣問題に少しずつ成果が出てきた報告でした。まずは昨年１月高知県と大阪医大の間で寄付講座契約が結ばれ、嶺北中央病院に総合診療科の医師が派遣されることになりました。今後は窪川病院（学部 27 期・川村明廣院長）に総合診療科に医師を派遣。最終目的は高幡地区に産科医を派遣するというものです。かつて国立系の医学部にあった既得権のような地方への医師派遣ではない、医師としての使命感から地方に手をさしのべる仕組みを大阪医大が担う、これぞ大阪医大設立の精神の体現と大いにうれしく思いました。御年の割にお元気でお若いとはいえ会長・濱脇先生のご奮闘振りに心が熱くなり、高知県仁泉会として応援していかなくてはいけないと感じました。

そんなこんなで真面目な話も盛り込みながらも飲んべえの県民性です。あっちへこっちへととっくりを持ってお酒を酌み交わす相手を求める先生、近森先生のワインの蘊蓄に耳を傾ける者、今年の甲子園出場高校の出身者が大いに気炎を吐いたりと、おおいに親交を深めあい９時まできっちりと楽しみました。そうそう学部28期の武田京子先生は聖路加病院にお勤めですが、毎年欠かさず出席して下さっています。有難うございます。

総勢 17 名。往年の人数には及びませんが、少数精鋭で頑張っています。そして濱脇会長のもと大阪医大高知県支部の一員として高知県医療に貢献していると少しだけ自負した日でした。午後９時、来年も健康で集まることを約束してお開きとなりました。

クラス会だより

学28期（昭和54年度）卒業生 双葉会　学年同窓会の報告

文責／松井昭彦（学28期）

去る平成27年11月22日に、京都左京区銀閣寺道の、白沙村荘、橋本関雪記念ミュージアム2階で開催されました。橋本関雪記念ミュージアムは、平成25年9月に出来たばかりで、大文字を真正面に見据えた素晴らしい眺望です。さらに祇園宮川町のファーストコール（まず声のかかる）の美しい芸舞妓さん5名にコンパニオンとして来てもらいました。割烹「はしもと」の美味しい京料理に舌鼓を打ちながら、絶頂期の京都の紅葉と芸舞妓さんのあでやかな舞いと、二つの絶景を観賞して頂きました。宴会は大変な盛り上がりで、予定外だったお座敷遊びの金比羅ふねふねまで飛び出し、芸舞妓さん相手に勝った負けたと大騒ぎとなりました。紅葉の時期の京都での開催ということで、ご夫婦連れもたくさんおみえになり、気の毒にも日を間違えて一日早く来てしまって泣く泣く帰ってしまわれた級友もありましたが、総勢46名の参加となりました。二次会は所を変えて宝ヶ池のグランドプリンスホテル京都内のバー、アプリコットで行い、ここでも40名の御参加を頂きました。夜更けまで同期生水入らずの話に花が咲いておりました。次回は平成29年、有馬温泉で開催されることに決まりました。

役員就任

〔福岡県支部長〕
学部14期　有吉孝雄先生

クラス会だより

学35期（昭和61年卒） 卒後30周年同窓会を開催しました！

文責／高須 朗（学35期）

我々学35期生も昭和61年3月に母校を卒業して早いもので30年が経ちました。記念同窓会を開催しよう機運が盛り上がり昨年夏から計画を始め、平成28年2月27日にホテル阪急インターナショナルで「卒後30周年記念同窓会」を開催しました。今回は、学35期同級生で新たに教授にご就任された、梅垣英次先生（神戸大学大学院 医学研究科特命教授）、園村哲郎先生（和歌山県立医科大学 放射線科教授）、前村憲太朗先生（本学 解剖学教室専門教授）を主賓にお迎えして、急患対応や体調不良で3名の方が急遽キャンセルとなりましたが、東は埼玉県、西は広島県からのご参集頂き総勢58名の参加となりました。

幹事の森脇真一先生（本学 皮膚科教室教授）の開会挨拶、そして佐々木恵雲先生（藍野短期大学学長）の乾杯で始まり、久しぶりの再会に美酒を交わしながら昔話に花が咲きました。浜直先生が卒業アルバムや学生時代の古い写真を編集した自作ミニ映画を上映され、流石は元映画部とあってその出来映えに皆がグイグイ引き込まれ、30年前にタイムスリップし、また、余興の高級ワインや老舗羊羹の味覚当てゲームでは、「本物がわかる？」諸先生の珍回答に、気が置けない級友同士で笑いがおこる和やかな会となりました。髪の毛が気になる諸先生も多くおられましたが、皆さん30年前の学生時代の生き生きとした雰囲気は衰えていませんでした。あっという間に時間が経ち、次回は35期生の大半が還暦を迎える4～5年後の再会を約束し、次回幹事に指名されました土手友太郎先生（本学 看護学部教授）の中締めで1次会は終了し、総勢50名が同ホテルのバーにそのまま2次会へ傾れ込み、思い出話は尽きること無く懐かしい時間を心行くまで共有しました。その夜、4次会まで進んだ強者もいたそうで、皆さんのパワーに改めて感心させられた夜となりました。

本当に楽しい夜を皆さんと共有できたことに感謝申し上げます。また、お会いしましょう。

仁泉ひろば
jinsen-park

社会保障費の充実とムダの削減を

文責／谷口紀善（学15期）

TPP に参入することで、日本の医療分野への市場原理主義の導入により、自由診療の領域が拡大され、国民の幸福を願う世界的にも類を見ない、優れた国民皆保険制度が今や崩壊しようとしている。医療につぎ込まれる税金は削減され、国民健康保険料も漸次引き上げられ、公的保険ではまともな診療を受けることが出来なくなるのでは…「病気が治るのも金次第」。例えば、透析は、かつては保険適用ではなかったのを保険適用としたが、現在、結構な保険点数となる。今やイギリスや他の先進国ではある一定のところまでは保険でみるが、その後は、自分でお金を出して透析を受けることになるとか…。

また、介護においても、金のある人は何千万円もする高級な介護施設の整ったマンションに入居できるが、金のない人はどうすればよいのだろうか…。

そのような状況下のもと安倍総理は、「介護離職ゼロとする」「社会保障の充実」など、新・3 本の矢を挙げられた。しかし、多かれ少なかれ矛盾してはいないでしょうか。確かに大企業と富裕層だけは潤っているが、社会保障の充実に本気で取り組む気があるのか。

もともと「消費税増税は社会保障に使う」ということであったが、財政危機を言い訳にほとんど使われていない。諸々の税金などもじわじわと増税され、物価高などで、今や国民の生活は決して楽ではない。すでに介護報酬は昨年 2.27% 削減され、社会保障は小泉政権を上回る 3900 億円以上の削減が打ち出された。さらに多くの消費税増税で、診療所では消費税損税が大きくなっている。これでは充分な医療はできない。患者の窓口負担増が受診抑制になり、重症化してからの受診では、益々医療費の増大につながることは自明の理である。

また、介護離職者をゼロにする、と公約されているが、当院でも昨年末、介護のため三名の看護職員がやめるなど人手不足で、診療を週二回休診にしなければならないのが現状である。だから、一刻も早く介護離職者ゼロを実現してもらわなければならない。年間 10～15 万人の離職者による GDP は年間 1 兆円マイナスとなる。介護職の平均賃金 22 万円と全産業の平均賃金は 33 万円で 11 万円も安くて、とてもやっていけないなどで、中小の介護施設は倒産しているのが現状である。その大半は介護報酬のマイナス改定が加味している。政府には医療・介護費を、ぜひ増やしてほしい。

ところで、安倍総理は今までの総理には出来なかった、（民主党政権下では全く出来なかった）あらゆる国々と外交を行い、米国（オバマ大統領）などと非常に親密な関係を築かれたことに対しては、評価できる。自民党の政党支持率も Top である。ただ、年々増え続ける国の借金はいまや、1100 兆円と先進国では最悪で税収は 50 兆円しかないのに国家予算は防衛費などもかさみ、100 兆円近い予算など、このような不健全な予算はいかがなものか！ このまま放置すれば、国債の償還や利払い（年 10 兆円）が、さらに膨らみ、政策経費が確保しにくくなるのは避けられない。このような状況下、例えば大半の国民は知らないが、毎年税金からの政党助成金 300 億円等が支出されているが、共産党以外は全ての政党が受け取り、辞退した共産党の助成金を国庫に返すどころかその助成金までも分け分けしているとか。それでなくても国会議員は、何かにつけ、優遇されているのに…。さらに多くの無駄遣いもある。だから、今後金がかからない選挙制度を構築すること。さらに、議員削減・身を切る改革など、与党も野党も早期に行うべきである。夏の参議院選挙前に出来ることからでも行うべきである。Yes,we can ！（いつやるのですか、今すぐです）

真の国民の幸せを考えた政治が行われることを望む。

仁泉ひろば
jinsen-park

大阪医大六甲会の報告

文責／黒川晃夫（学43期）

昔から日本人は、桜の花や紅葉を眺め堪能してきた。桜の季節は友人や仕事仲間との別れの時期であり、紅葉の季節は晩秋のもの悲しさを醸し出す時期である。かくの如き切ない思いは、やがて消えゆく美がより美しく、かつはかないものとして我が日本人の心に克明に映し出されるのであろう。

さて、桜が満開の 4 月 2 日（土）、大阪医大六甲会（通称六甲会）が、元町にある中国料理「東光」にて開催された。六甲会とは、六甲学院中学校、高等学校から大阪医科大学へ進学した学生と先生が親睦を深める会である。六甲会が発足されたのは、実に半世紀以上前に遡る。当時大阪医大生であった榊原茂樹先生をはじめ数名が大阪医科大学内科で勤務されていた西本博先生のところへ出向き、食事をおごってもらったことが事のきっかけとされている。ここで、六甲学院について簡単に触れることにする。六甲学院は、昭和初期に開設された中高一貫の男子校である。駅から本校までの急な坂道をてくてく歩く。後輩が先輩とすれ違うと、必ず帽子を脱いで「おはようございます」と挨拶を交わす。2 時間目が終わるや、学生が上半身裸となって一斉に校舎を飛び出しグランドを走る。放課後、学生による構内の掃除が始まる。清掃員の姿はどこにもない。とりわけ便所掃除は「便番」と呼ばれ、上半身裸で便器、便所の床をくまなく磨く。冬には高 3 を除く学生全員が 36ｋｍにもおよぶ道のりをひた走る。このように、一見世間離れしているとも見なされがちな六甲学院の教育が、他校にみられない一種特有の助け合いの精神、いわゆる「六甲精神」を育み、同胞の絆を深めていく。この六甲精神こそ、六甲会をこれほど長きに渡り存続させた原動力であるといっても過言ではない。話は横道にそれるが、先日、漢方を講演するにあたってのノウハウを勉強するセミナーである KAMPO 千福塾に一緒に参加されていた六甲学院卒の山崎 元先生（第二東和会病院院長）がセミナー終了後、「六甲出身の人は見たら何となく分かるなぁ」とおっしゃられた。確かに六甲会に行く度に、六甲学院独特の温かい空気に包まれほっとするものである。

今年も、西本 博会長の挨拶にて会が始まった。背筋をピンと伸ばしてはっきりとした口調でしゃべられるその外観からは、とても 80 歳半ばを過ぎているとは想像できない。続いて、榊原茂樹先生の乾杯の発声とともに、和気あいあいとした団欒が繰り広げられた。東光は森義孝先生御推薦のお店で、食事、酒ともに抜群の味であった。先輩後輩が少しずつ打ち解けてきた頃、下の学年から順に自己紹介がなされた。真野翔君が、今年医師国家試験に無事合格したことを報告するや、どっと拍手が沸き起こった。最後はとてもいい雰囲気で一次会を終えることができた。

二次会は、三宮の飲み屋で行われた。一次会に参加できなかった西田 悠先生、寛島佑史先生、中田庸介先生、そして今年国家試験に合格した橋本 黎君は、二次会で合流した。お酒を

三次会 あんかけ亭 光
手前左から時計回りに橋本、西田（光）、井尻、岩井（敬称略）

飲んだりカラオケを歌ったりして、楽しいひとときを過ごした。三次会は二手に分かれた。私を含め数名は、井尻慎一郎先生に「あんかけ亭光」でカレーあんかけを御馳走になった。遅い時間帯にも関わらず、店内外の座席が全て埋まる程の超人気ぶりあった。結局テラス席で食べることとなった。心地よいそよ風の吹く中でのカレーうどんは実に美味しかった…。

今年の六甲会で、戻ってきた返信葉書の数が少ないとの御意見を頂戴した。全ての先生方に御案内が行き届いていない可能性があり、私として反省すべき点と真摯に受け止めている。今後、できるだけ多くの先生方に御案内が行き渡るようにするとともに、今まで以上に六甲会を盛大に盛り上げていきたい。稿を終えるにあたり、忙しい中、学生の呼び集めに協力してくれた中田先生並びに真野君に感謝の意を表する。

出席者（敬称略）
西本 博（学 5 期）榊原茂樹（学 17 期）
安藤嗣彦（学 20 期）陳 京生（学 21 期）
森 義孝（学 22 期）岡 博行（学 25 期）
木村純平（学27 期）井尻慎一郎（学 31 期）
松本逸平（学 42 期）黒川晃夫（学 43 期）
尾原幹啓（学 44 期）、横山 亮（学 55 期）
真野 翔（学 65 期）、岩井建樹（学 66 期）
西田光志（学 66 期）
尚、西田 悠（学 55 期）寛島佑史（学 60 期）
中田庸介（学 63 期）橋本 黎（学 65 期）は、二次会から合流した。

一次会 中国料理 東光
時計回りに西本（立って挨拶）、榊原、松本、井尻、西田（光）、安藤（敬称略）

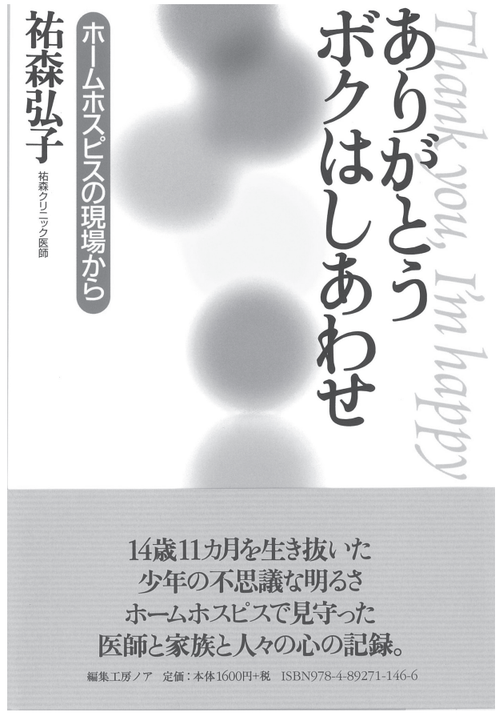
会員著書

「再発ゼロへ 完全社会復帰を実現する『こころの病』の治し方」

加藤鈴幸（学 14 期）
加藤豊文／共著
出版社／幻冬舎
価格／￥1,400＋税

加藤鈴幸

1938年愛知県豊田市生まれ。1957年愛知県立岡崎高校卒業後、大阪医科大学へ進学。卒業後名古屋大学病院にてインターン修了後、国立名古屋病院（現・名古屋医療センター）精神科でレジデントに。修了後、同病院精神科に1977年まで在籍。その後、1977年に医療法人美衣会 衣ケ原病院院長に就任。1991年医療法人美衣会 衣ケ原病院理事長兼院長に就任し、現在に至る。日本では珍しい臨床医の催眠療法士として、精神科治療に貢献している。



「ありがとう ボクはしあわせ ホームホスピスの現場から」

祐森弘子（学36期）／著
出版社／編集工房ノア
価格／￥1,600＋税

学部36期 祐森（旧姓大竹）弘子先生執筆の「ありがとう ボクはしあわせ」を御紹介いたします。この本は2006年に出版され、2013年には第5刷も発刊され、購読された先生もあるかもしれませんが、小児在宅ホスピスの先駆けともいえる経験を、患者並びに家族の立場に立って診療された実話です。是非、一読される事をお薦めします。

安藤嗣彦（学 20 期）

新聞切抜

給食の食器 カンボジアへ

市教委、不用の300セット寄贈

アルマイト食器を前に、カンボジアの子どもの様子を話す京都市学校医会の竹内副会長(左)ら＝中京区・市役所

京都市立小の給食で使わなくなったアルマイト食器を、市教育委員会が支援団体を通じてカンボジアの学校に寄贈することになり、5日、中京区の市役所で贈呈式が行われた。

約300セットを現地の子どもの給食に役立ててもらう。

寄贈先は「バイヨンスクール」で、両親を失うなどの理由で貧しく、公立学校に行けない5～12歳の約230人が通う。市学校医会と、京都南ロータリークラブが約7年前から、校舎整備やトイレの設置などを支援している。昨年、食堂が完成したが、食器の不足に悩んでいた。

市教委は、給食の和食推進の取り組みの一環で、本年度から3年間で全市立小の9割近い146校でアルマイト食器を合成樹脂製に変更する。これを知った市学校医会の竹内宏一副会長が譲渡を申し入れた。

式には、関係者が出席し、嵯峨野小（右京区）と桂坂小(西京区)で使っていた皿と器計4枚のセットが贈られた。竹内副会長は、現地の様子を写真で示し、「毎日、学校に行けて給食が食べられることは恵まれているのだと、京都の子どもたちに伝えてほしい」と在田正秀教育長に話した。

（藤松奈美）

★★★2016年2月6日付け京都新聞に掲載された竹内宏一先生（学18期）の記事をご紹介いたします。★★★

がん細胞エネルギー制御

岐阜大院教授 遺伝子を特定、新薬研究

赤尾幸博教授

岐阜大大学院連合創薬医療情報研究科の赤尾幸博教授(63)＝がん分子生物学＝が、がん細胞のエネルギー獲得を司り、がん細胞の生存を左右する遺伝子を発見した。エネルギー生成を絶つため、この遺伝子を分解する次世代医薬も開発中。投薬実験では、がん細胞が飢餓死したり、小動物のがん腫瘍が縮小したりする効果が確認された。赤尾教授は「ヒト対象の新薬として7～8年後の実用化を目指したい」と話している。

赤尾教授によると、がん細胞のエネルギー生成にターゲットを絞った創薬は初めて。白血病や大腸がんといったがんの種別にかかわらず効果を発揮する可能性がある。成果をまとめた論文がオンラインの国際科学誌オンコターゲットに公開された。

がん細胞は、グルコース（糖）を分解して高エネルギー化合物のATP（アデノシン3リン酸）を生み出す「解糖系」と呼ばれる仕組みで生存や増殖のエネルギーを得ている。

赤尾教授はさまざまな患者のがん細胞を解析し、解糖系を機能させるための酵素をつくるよう仕向ける遺伝子「PTBP1」を特定した。がん種別を問わず、正常な細胞よりこの遺伝子の量が多くなっていたことに注目した。

次世代医薬はPTBP1を分解する核酸医薬で、化学合成が可能。赤尾教授がヒトの大腸がんの細胞に投与したところ、2、3日で分解され、がん細胞も著しく減少した。さらにマウスの腫瘍に注射したところ2回目以降、腫瘍が小さくなり消失した。新年度以降に犬の自然発症がんでも試し、ヒトへの応用を目指す。

正常な細胞は、別の酵素の作用により、ミトコンドリアで効率よくATPをつくる仕組みを主に働かせてエネルギーを得ている。赤尾教授は「がん細胞に特有のPTBP1に標的を絞って攻撃する薬が使用できれば正常な細胞が傷つかず、人体への負担が減らせる利点がある」と話している。

（小森直人）

★★★2016年3月29日付け岐阜新聞に掲載された赤尾幸博先生（学27期）の記事をご紹介いたします。　文責／小嶋昭次郎（学29期）★★★

編集部より

会費納入のお願い

年会費
平成28年度　10,000円
平成27年度　10,000円
平成26年度　10,000円
納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局　会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。
ご投稿お待ちしております。

●47巻4号（平成28年7月1日発行）
　締切　平成28年5月末日
●47巻5号（平成28年9月1日発行）
　締切　平成28年7月末日
●送付先：仁泉会事務局　〒569-8686　高槻市大学町2-7
E-mail：jimu@jinsenkai.net　　FAX：072-682-6636

新聞切抜

シンポジウム 第10回「大腸がん死亡ゼロを目指して」

大腸がんに対する外科治療の進歩

傷痕残さず治癒早く

大腸は他の臓器に比べて手術の効果が大きいといえます。進行がんはリンパ節や肺、肝臓、腹膜や隣接臓器などに転移している可能性があり、その時は合併切除を要しますが、リンパ節までなら取りやすく、他に転移していたら、化学療法でがんを小さくしてから手術することもあります。

私が行っている腹腔鏡手術は痛みが少ないうえ治りも早く、技術の進歩で一段と体にやさしくなりました。触診が行えないことや視野が狭いという注意点はありますが、術前検査を行って3D－CT画像を作り、手術室のモニターに転送、それをナビゲーションして手術を行っています。

直腸がんの場合、患者さんが一番気にされるのが、肛門を残せるかです。肛門から5㌢以上離れていたらおおむね大丈夫ですが、直腸の周囲は神経や血管が多く、いかに傷つけないようにするかが大事です。

大阪医科大では2015年度、512件の結腸、直腸がん手術のうち498件を腹腔鏡で行い、92%が肛門温存術でした。通常5%程度ある縫合不全は211件中4件（1・9%）。排尿障害も254件中6件（2・4%）と良好な結果でした。

大腸がんに対する腹腔鏡手術にはこれからは創造化が求められると考えています。傷痕を残さないため、早期がんにはおへそに1カ所だけ穴を開ける単孔式手術をやっています。さらに、どんな人にも需の高い手術をしたいと考えたのが三次元腹腔鏡です。立体的に見え、触覚能も向上しました。

肛門に近い部位のがんには、3Dカメラを肛門から入れて、おなかからのカメラと併用して手術しています。今後は残り7、8%の肛門を残せない人に対する再生、形成術が必要です。今後も患者さんと楽しく生きることを目指していきます。

大阪医科大付属病院
奥田準二特務教授

おくだ・じゅんじ　大阪医科大学卒。2005年同大学病院消化器外科医長。准教授を経て14年から同病院がんセンター特務教授。日本大腸肛門病学会評議員。

大腸がんに対する診断と治療の最前線

カプセル内視鏡、登場

大腸がんでは、S字結腸や直腸にできると血や血便、便秘、下痢、便が細くなるなどの症状が、上行結腸あたりにできると貧血やしこりなどの症状が出ます。しかし、そうした症状が出る前の早期がんのうちに見つけたいものです。

診断は、まず便潜血検査。症状に限らず毎年やってください。陽性だったらバリウムを大腸に注入する注腸検査や大腸内視鏡で精密検査をします。今はほとんど内視鏡です。下剤がつらいという人もいますが、飲みやすい下剤や少量ですむ下剤も出ています。検査自体も、恥ずかしいことはありません。

内視鏡だと、前がん病変であるポリープが数㍉の段階で発見できます。5㍉以下の隆起型なら精検と同時に除去して終わりです。粘膜下層や筋層に及んでいると、近くのリンパ節に転移している可能性があるので手術を検討します。拡大内視鏡である程度、良性か悪性か判断できますし、超音波内視鏡でがんの深さも分かります。

粘膜下層に少しだけ入ったところまでなら内視鏡でとれます。化学療法も副作用が少なくなってきています。

現在、飲むだけですむカプセル内視鏡が出ています。大腸用なら長さ約3㌢、幅約1㌢。飲んだら3時間から5、6時間で大腸に届き、両端に付いたカメラで1秒間に30枚撮影します。2013年に、条件付きですが保険適用になり、約3万円で受けられます。

07年の統計では、精密検査を受けない理由として、自覚症状がない、がんが見つかるのが怖い、痛くてつらそうというのが多くを占めていました。カプセルはそういうことはないので患者さんのためになると思います。

便潜血反応が出たら、精密検査でセーフだったとしても毎年便潜血検査を受けてください。

大阪医科大
樋口和秀教授

ひぐち・かずひで　大阪市立大学医学部卒。同大学助教授などを経て2007年から大阪医科大学第二内科教授。10年から副院長。日本カプセル内視鏡学会理事。

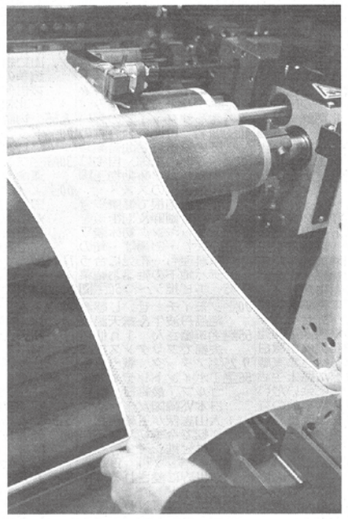
★★★2016年３月18日付
毎日新聞に掲載された
奥田準二先生（学33期）、
樋口和秀教授の記事を
ご紹介いたします。★★★

★★★2016年３月20日付け讀賣新聞に
掲載された本学の取り組みの記事を
ご紹介いたします。★★★

目指せ「下町ロケット２」

町工場と大学 医のコラボ

大阪医科大の心臓外科医と福井市の編み物会社の技術者らがチームを組み、子どもの心臓手術で使うシート状の医療機器「心臓修復パッチ」を開発した。国産では初のシートで、2018年の臨床試験（治験）を目指す。異色の開発チームの取り組みは、医師や町工場の技術者が心臓の人工弁を開発していく小説「下町ロケット2　ガウディ計画」をほうふつとさせ、作者で直木賞作家の池井戸潤さんに医学的助言なども行っている。チームは「小説のように早く実用化したい」と意気込む。（浜中伸之）

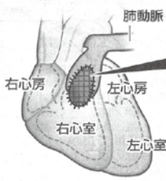


（右）専用の編み機で製作される「心臓修復パッチ」に使われる素材（福井市の「福井経編興業」で）＝長沖真太撮影
（左上）パッチの開発に貢献した福井経編興業の高木専務
（左下）「一人でも多くの子供を救いたい」と話す大阪医科大の根本教授

子供用心臓シート 国内初開発

池井戸さん「誠意、粘りに感銘」

池井戸潤さんの話「根本教授や福井経編さんらの取り組みについては、取材を通じて知りました。このプロジェクトに関わる人たちのひたむきさや誠意、粘り、熱量には感銘を受けないではいられませんでした。小説の中だけではなく、現実にこうした新技術に挑む人たちがいるからこそ将来の医療があるのでしょう」



心臓修復パッチを使った治療のイメージ図

◆再手術の負担

チームを率いる同医大の根本慎太郎教授(51)（小児心臓血管外科）は、年間約100人の子どもを手術する。心臓には左右に心房と心室が一つずつあり、生まれつき心室の壁に穴が開いていたり、血管が狭かったりする病気が手術対象となる。こうした手術を受ける子どもは全国で年間約1万人おり、うち約4割がシートを使った治療を受ける。

現在使われているのは外国製で、伸長性がない素材。乳幼児の心臓につながる肺動脈の血管を拡張する手術では、シートが使われた血管部分が成長せず、5年を過ぎると再手術するケースが増えるという。根本教授は「再手術は肉体的、精神的負担が大きい」と、数年前から新しい素材を使ったシート製作の検討を始めた。理想は、体内で溶けて自分の細胞に置き換わる糸と、心臓や血管の成長に合わせて伸びる糸を素材にして、編んだシートだった。

◆チーム結成

2012年春、偶然見た新聞記事で福井市の「福井経編興業」が、シルクを使った人工血管の開発を進めていることを知り、同社の高木義秀専務(62)に相談した。高木専務は技術的に可能と判断。苦しむ子どもを目の当たりにして「何としても自分たちの技術で命を救いたい」と強く思った。

専用の編み機を購入し、同社の工場で、同年夏から計画に着手。根本教授が、シートの仕様を考え、工場では編み込んだシートが一方向にしか伸びないなど、失敗を繰り返したが、技術者らが編み方を改良し、約3年かけて面積が最大4倍程度まで伸びる試作品を完成させた。大手繊維メーカー「帝人」も糸の素材加工などで協力。ブタの大動脈にシートを取り付けた実験では、シートが血管の一部に置き換わることも確認した。根本教授は「再手術なくてすむパッチができた」。

◆小説ドラマ化

今回の計画を、高木専務は昨年、知人を介して知り合った池井戸さんに話した。根本教授も高木専務から紹介を受け、池井戸さんに心臓手術の現場を見せるなどした。小説は昨秋ドラマ化され、福井経編の工場も撮影場所になった。

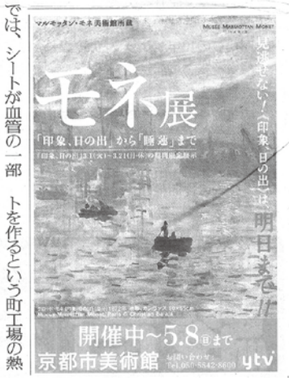
巻末で池井戸さんは、「医療とはどうあるべきなのかという、この物語に必要不可欠なエッセンスを授けていただいた」「中小企業のフロンティアスピリットを学ばせていただいた」などの謝辞を記した。

高木専務は「絶対にシートを作るという町工場の熱い思いが、池井戸さんにも伝わったと思う」と話す。

2年後の治験目標

国内で使用される医療機器は、リスクに応じて4クラスに分類され、「心臓修復パッチ」は、最もリスクが高いクラス4にあたる。クラス3と4は、医薬品医療機器総合機構（PMDA）の審査を受け、承認されなければならないが、現在使用されている修復パッチは海外製の2種類とされる。

医療機器の輸出額増大に力を入れる国は、2年後の治験を目指す今回の計画に注目している。安倍首相は17日、東京都内での日本商工会議所通常会員総会で、中小企業の商品開発に触れ、修復パッチの素材を使った関連品として「福井市の中小企業は大阪医科大の協力のもと、生体適合性の高い糸を用い、成長に合わせて大きさが変わる試作品を完成させた」と評価した。



冊子切抜

老境＆老化
…心身の衰えを　自覚すること…

横　山　光　昭

新年、明けまして、おめでとうございます。

小生も６回目の年男を迎えました。昔は、年齢は誕生日でなく、正月が来るとひとつ加えていました。そのため、一休　宗純の狂歌に「門松は　冥土の旅の一里塚　めでたくもあり　めでたくもなし」があります。裏を返せば、元旦がくるとひとつ年をとり、一歩ずつ死に近づいていることを意味します。

社会保障人口問題研究所による2050年、日本人の平均寿命は、男性80.95歳　女性89.22歳、総人口に占める老年（65歳以上）人口は35.7%に達するという。日本は各国に先駆けて老年人口が急増中で、『老年期を、いかに意義ある生き方にするのかは、来るべき高齢社会の命題』でもあり、各国は日本の施政に熱い視線を向けているのでないだろうか。

人生50年世代から、平均寿命は30年程延びました。現代文明の進歩が早く、一生の時間が過去の数世代に相当し、歳を取る時間がないほど目まぐるしく変化します。現代社会で「老境」とか「枯淡の境地」いう言葉は使用されず、老人と呼ぶにはまだまだ10～20年早いといった心境ではなかろうか。

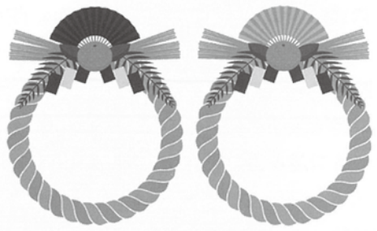
実年齢と肉体年齢の関係は、男性の場合、８掛けが相当するといわれております。従って 小生の精神年齢は、72歳×0.8で57.6歳となり、体力的にも・精神的にもまだまだ若いつもりでいるけれど、年齢を重ねるごとに、確実に、記憶記銘力・集中力・反射神経・体力年齢は衰えてきていることが切実に感じられます。特に、記憶力の低下に伴う「物忘れ・ど忘れ」に遭遇する機会が増え、よる年波には勝てないことを認めざるを得ません。

近頃とみに記憶力は低下し「あれ」「これ」「それ」といった代名詞の使用回数が増え、発想力も鈍ってきたことに気づき、思考力に至っては柔軟性が失われてきたように思われます。更に、愕然としたのは視力が落ちるとともに老眼が進行し、小さな活字で書かれた新聞・複雑な専門書・長編の文書などに不自由を感じるようになってきました。

また、日々成長し続ける孫たちの動きについて行けず行動を起こす前、安全第一に配慮したのは60代半ばだったようです。失敗を恐れ、慎重過ぎる行動と客観的視点が疎かになったのは70歳前であったと記憶し、体力的にも衰えが目立つ時期とも一致していたように思われます。

最近では元気な高齢者が増え80歳代といえどもスポーツジムに通ったり車を運転する人もあり、今さら驚くべきことでもありません。しかし、若いときのような俊敏さが失われていることは確かです。要は『心身の衰えを自覚すること』が大切です。歳をとり自分自身の現状をしっかり把握してこそ、「青春に定義なし」が生きてきます。しかし、定年もなく天命を全うするまで働ける職種をライフワークとする限り、年齢相応の体力と新しい知識を吸収できる気力と記憶力が残っていて、心身とも裕福な人生がおくれたらと願っている昨今です。

《明石市》



年頭所感（平成28年）

安　藤　嗣　彦

私も、今年で６度目の年男を迎える。私が生まれた頃であれば、この年齢のお年寄りに“ご長寿ですね！”とお声をかけても、怒られる事はなかったでしょう。しかし、現在の同年代の人達は、どうであろうか？フルマラソンを完走する人は珍しくなく、この年からでも、色々なスポーツに挑戦し、楽器や料理、園芸等の趣味に走る人もいる。新聞、テレビには熟年者へのお誘いの記事が溢れている。超少子化の現在、少し懐の豊かな我々の世代は、格好の標的となっている。最近、100歳を超えた御老人が、100メートル走のギネス記録を更新したとのテレビ放送を見たが、その人が、ウサインボルトのパーフォーマンスをまねられていたのを見た時は、失笑よりも、高齢化社会もここ迄きたかとの思いであった。健康寿命が叫ばれている反面、同世代でも種々の疾患で寝たきりや、フレイルの状態の方もおられる。健康にも格差が広がっている。誰でも‘身体ピンピンがいい’に決まっているが、大部分の方は、好きで寝たきりの状態になった訳ではない。若い頃より、健康に気をつければ、健康寿命はのびると、医療関係者は言うが、20～30台で節制する人は多くはない。遺伝的な要素も否定できない、現在、想像以上のスピードで、遺伝子解析、ゲノム解析が進んでいる。若い頃に、将来が予想される時代が来る事も予想される。その頃の医師は患者さんにどうMTするのであろうか。一方、寿命が幾ら延びても、福祉、幸福感がついていかねば、何の意義もない。

《灘　区》

★★★兵庫県医師会報‘15.12～’16.01 No736に掲載されました横山光昭先生（学19期）、安藤嗣彦先生（学20期）、鈴木克司先生（学31期）の記事をご紹介いたします。★★★

ついに還暦の原稿

鈴　木　克　司

36歳・48歳とこのコーナーで投稿して今回で３回目になる。昨年、他誌の執筆依頼で人はいつまでも若いと思っていたいものだという内容の話を書いたが、年改まり一層そんな気がする。その原稿では「シルバー」という語については20～40歳台の人が60歳以上をさすと思っているのに対し、50～60歳台は65歳未満をシルバーでないと思っているとの民間調査機関のデータを紹介したが、別の民間調査機関が「シニア」という語について40～60歳台の男女2,700名を対象に意識調査を行ったところ、50歳台の９割は自分がシニアと思っていないとの結果が得られたそうである。40歳台の97.7%、50歳台の86.9%がそのような意識でいるらしいが、なんと60歳台でも53.8%と過半数は同じ意識らしい。

診療現場で健康寿命を延ばすために食事・運動・睡眠・ストレスコーピングの重要性を説き、ご自身も加齢を意識して実践されている方は少なからずおられることだろう。筆者もその一人であるが、それでも上記のような意識は持っていると思う。今の自分には講演したり原稿を書いたりする機会が毎年多々あり、そのうえ少しずつ増加傾向すら感じる。振り返ればその際、聴衆や読者に若くエネルギッシュな印象をもって受け取ってほしいとの気持ちをどこかにしのばせながら行動していることは否めない。一方では確実に老化・衰えがしのびよっているのである。36歳・48歳の時と比較すれば、本稿作成にあたりアイデアがすぐ浮かばず、他誌で使ったネタに関連した内容にしてその際の原稿・資料を引っ張り出してくるところなんか、その証左である。

それでも今年もがんばるぞ！。

《尼崎市》

冊子切抜

三雲クリニック

奥　西　秀　樹

本年９月１日より開設したばかりの三雲クリニック（内科一般）を担当しております奥西と申します。かなり変わった経歴ですので、概略を紹介させていただきます。

なお、三雲クリニックは元の「菊田医院」の施設・建物を引き継ぐかたちで使わせていただいています。来院される患者さんも菊田先生（私にとっては大阪医大の大先輩）の時代からそのまま続いてお越しいただくケースが半数を超えるように思います。今年３月に菊田医院が閉じられてから半年で再開できたのも、ひとえにご縁のおかげと申せましょう。関係各位に深謝する次第です。

大阪医大の臨床医時代

出身は大阪府北河内郡交野（かたの）町ですが、現在は交野市になっています。大阪医大を昭和49年（1974）に卒業し、大学病院で泌尿器科に属し透析医療に携わっていました。泌尿器科のほうも手を抜くことなく頑張っていましたので、当時は未だ症例報告が稀であった乳児の先天尿路奇形、異所性尿管瘤を発見し、確定診断に成功したことを思い出します。

ご存知のとおり腎不全患者の大多数は高血圧を合併していますが、当時は良い降圧薬がなく治療に難渋しました。レニン活性の高いタイプにはプロプラノロール（商品名：インデラル）などのβ遮断薬が効くという米国の論文や本を読んで、それを実践してみたところ、うまく血圧コントロールできるケースが多かったですが、難航することもありました。また、当時の日本ではプロプラノロールは降圧薬としては承認されていなかったので、私のは適応外使用に過ぎませんでした。そこで、高血圧症の病態生理学／薬理学を研究・修練するべく、昭和52年（1977）４月、新設まもない滋賀医大・薬理学講座（戸田　昇教授、宮崎瑞夫助教授）の助手に採用していただきました。

滋賀医大時代

戸田教授には摘出血管を用いたマグヌス実験法を教わり、宮崎助教授にはイヌで高血圧モデルを作成することを初め、レニン活性の測定法など様々な実験手法を学びました。1978年秋ころからはACE阻害薬の開発研究の一端に関わらせていただく機会に恵まれました。ACE阻害薬を摘出血管と生体位実験の双方で用いることによって、教科書的なレニン・アンジオテンシン系の生理学・薬理学を再確認できただけではなく、ACE阻害薬の効かないアンジオテンシンⅡ産生酵素（のちにキマーゼ chymaseと判明）が血管組織内に存在することの証明に成功しました。最終的に結論を導き出せたのは1983年3月頃のことでした。

同年７月から1985年９月末日までハーバード医学校のポスドク研究員として米国ボストン市に留学し、マサチューセッツ総合病院循環器ユニットのE. Haber教授とブリガム婦人病院リウマチ免疫学のK. F. Austen教授のもとでカリクレイン阻害薬の開発基礎研究に専念しました。

帰国後は、未だ同定できていなかった非ACE・アンジオテンシンⅡ産生酵素の分離・同定に挑戦したり、ヒト病理解剖標本を用いて「ヒト血管の病態生理に於けるアンジオテンシンⅡ産生機構の変動と役割」を探索研究したりしていました。

再び大阪医大へ

宮崎助教授が大阪医大・薬理学教授として異動されたことに伴い、私は同講座の助教授として母校に戻りました（平成元年２月）。研究生や大学院生らとともに幾つかのプロジェクトを遂行し、かなり大きな成果を上げることができました。とりわけ、血管外膜のマスト細胞に由来するキマーゼが、１）アンジオテンシンⅡの産生を通じてPTCA後再狭窄に関与すること、２）動脈硬化プラークの破裂に関与すること、などを解明できたのです。キマーゼの分離・同定や遺伝子クローニングでは米国クリーブランドのグループに及びませんでしたが、血管組織キマーゼの病態生理学に関しては世界に先駆けて研究成果を発表することができ、国際高血圧学会で高い評価を得ました。

★★★甲医だより No77 に掲載されました奥西秀樹先生（学23期）の記事をご紹介いたします。★★★

島根医大時代

平成６年８月から島根医大薬理学講座を担当することになり、出雲市に移りました。異動を機会に、キマーゼの持つ「アンジオテンシンⅡ産生以外の機能的意義」を探索し始めました。その後、興味の範囲をより拡げて「慢性線維性炎症fibrosisに於けるマスト細胞（および、そのプロテアーゼ）の役割」をライフワークと心得てきました。その主旨を理解して研究チームに参画してくれた若い世代と一丸となって、国際的に評価・注目される幾つかの成果を上げてきました。島根には20年近く勤務しましたが、研究業績を上げるに留まらず若い世代の人を育てることができたのが何よりの喜びと感じつつ平成26年３月末をもって定年退職しました。

定年退職後の臨床復帰

平成26年４月１日、旧知に請われて京都市内の老健施設の施設長に就任しました。私にとっては全く未知の領域でしたので、春秋の２回にわたって集中研修を受講させていただいたのはまことに有難かったと今も思います。しかし、老健には介護保険制度のもとでの数々の制約があり、医者ならではの仕事があまり出来ないことを遺憾に思っていました。そこで、急ではありましたが本年３月末日をもって同職を辞し、４月１日から浪人しておりました。せっかく老健で研修したことを活かしたいと思って滋賀県内で再就職口を探していましたところ、医療法人社団　美松会の生田邦夫理事長（実は大阪医大の同級生なのです）と話す機会を得ました。ふたりで話し込むうちに、甲賀湖南地域の高齢者の医療・介護に関する考え方が、少なからぬ点で一致することが判りました。しかし、私のような臨床経験の乏しいものが独立したとしても医療に貢献できるとは思えないため、６月半ばから８月末まで生田病院で内科外来を担当しながら臨床研修させてもらいました。

内科外来で、高齢者に限らず幅広い年代の患者さんを診ることによって、短期間ではありますが何とか臨床経験を積み上げることができたようです。理事長からお墨付きを頂戴したようで、同法人が開設する三雲クリニックを任されることとなりました。９月１日以降、住み込みで同クリニックの診療に勤めるとともに、法人の系列施設である水口の特養ホーム「レーベンはとがひら」に往診もしています。

診療の方針・特長

私は古い時代に臨床を離れてしまったので、専門医の資格は何一つありません。しかし、ひとりの患者さんを臓器別に診るのではなく「動的平衡にある一つのまとまりある秩序」と捉えることによって総合医療的なことができるのではなかろうかと、甘く甘く自己評価しています。長年つちかってきた病態生理学的な思考法を通じて、先達の諸先生方に何とか着いていけるのではなかろうかと思うのです。この考え方が独善で終わらないように、絶えず内省し、また外に学ぶ姿勢を続けたく思っています。

専門医の資格はありませんが、高血圧や腎臓病、心不全など循環器領域には多少の心得があります。とくに「売り」と考えているのはACE阻害剤の活用です。いまやARBに押されて忘れられたかのような存在ですが、今年になって「ACE阻害剤の復権」を想わせる本が相次いで出版されました。『ACE阻害薬を使う深い理由』（MCメディカ出版）と『実はすごい！　ACE阻害薬』（南江堂）の２冊です。大阪医大・助教授時代に６種類ほどのACE阻害薬を薬理学的に比較した経験があり、単なる薬科学（薬化学）のみならず「病態生理における薬剤パーフォーマンス」の観点から「これがベストなＡＣＥ阻害薬だ！」という裏付けデータを持っており、それを臨床実践の場でも活用していきたいと考えております。「基礎医学と臨床医学の境目の無い相互交連」こそ私ならではのノウハウと考えているのですが...自惚れが過ぎますでしょうか。何卒よろしくご指導・ご批評のほどお願い申し上げます。

エッセイ

オリンピック物語（2）

西村 保（学 4 期）

数あるオリンピック競技の中で、そのメインは何と言っても陸上競技であろう。特に最も距離の短い100米走と、最も距離の長いマラソンが注目の的である。

1896年の第１回アテネ大会の100米走の優勝タイムは12秒０であった。1900年の第２回パリ大会の優勝タイムは11秒 0、そして1908年のロンドン大会では初めて10秒台に突入した。タイムは10秒８であった。それから長い間 10 秒の壁は破られなかったが、1968年のメキシコ大会でアメリカのジム･ハインズが初めて10秒の壁を破った。タイムは９秒９であった。

現在100米走の世界記録は2009年、ベルリンで開催された世界選手権大会でジャマイカのウサイン･ボルトが出した９秒58である。

100米走に出場した日本選手は殆ど予選落ちであるが、1938年のロスアンゼルス大会で、当時、暁の超特急と称された吉岡隆徳が決勝まで残り６位に入賞した記録がある。

1936 年（昭和 11 年）のベルリン大会でアメリカのジェシー･オーエンスは、100 米走、200米走、400米リレー（第１走者）、走り幅跳びの４種目で金メダルを獲得した。現在なら英雄としてマスコミや企業が殺到し、一躍お金持ちになったであろうが、当時はアマチュアリズム全盛時代だったから金銭的な報酬は全くなかった。それで生活のために馬と競争する競技に出たり、賞金稼ぎの競技に参加したりしたのでアマチュアの資格を剥奪されたが、その後ボランティア活動などを懸命に行ったりしたので、その名声と地位を取り戻し、1976 年に大統領自由勲章を受章した。それから４年後の1980年（昭和55年）に死亡した。

オリンピックの創始者であるクーペルタンは、かねがね古代オリンピックと近代オリンピックとを繋ぐ競技はないものかと考えていた。そして友人の助言でマラトンの戦いの故事を思いついた。マラトンはアテネの北東に位置する小さな村で紀元前498年、ペルシャの大軍が攻め入った時、迎え撃ったギリシャ軍が寡兵ながら勇敢に戦って之を撃退した。この朗報をアテネ市民に一刻も早く伝えたいとの思いから１人の若者が野山を走りに走ってアテネに駆け戻り「われ勝てり」と叫んで息絶えたのである。

クーペルタンはマラトンからアテネまでの距離が約40キロ米だったので、これをマラソンと称してオリンピック競技に加えたのである。

このように当初、マラソンの距離は約 40 キロ米前後とマチマチであったが IOC が距離がマチマチなのはどうもよろしくないと提言した。そして第４回ロンドン大会の時、英国王の要請で宮殿の前から出発するようになった。そこからゴールの競技場までの距離が 42.195 キロ米であったのが現在に至っているのである。

マラソンは真に苛酷な競技で1912年のストックホルム大会では死者がでた。ともあれマラソンの金メダルは３個の金メダルに相当するといわれている。

笑い話であるが、1904年の第３回セントルイス大会で、アメリカのフレッド･ヨーツは 20 キロを過ぎた辺りでリタイヤーした。そこへたまたま車が通りかかったのでそれに便乗し競技場の近くで降りてゴールに飛び込んだのである。アメリカ国民は自国の選手が優勝したので大喝采したが、車のドライバーが事の顛末を暴露したのでヨーツはオリンピックから永久に追放された。

1936年（昭和11年）のベルリンオリンピックでのマラソン優勝者は孫基禎（ソン･ギジョン）である。その名のごとく韓国人である。しかし当時の韓国は日本の統治下だったので日本の代表として出場したのであるが、大会直後に朝鮮の新聞である「東亜日報」に胸の日の丸が塗りつぶされた写真が掲載され、同紙記者の逮捕･発刊停止処分となった。孫自身も民族意識が強く「なぜ君が代が自分にとっての国歌なのか」と涙ぐんだりしたので帰国した孫選手には警察官が張り付き、予定されていた祝賀会などは全部中止させられた。

韓国と日本とは当時からと云うより、明治時代に統治されてから絶えずゴタゴタが続いて今日に至っている。

孫は第二次大戦後には晴れて韓国人となり、韓国のマラソンコーチとして、1948 年のロンドンオリンピック、1952 年のヘルシンキオリンピックでは韓国選手団の総監督を務めた。そして1988年のソウルオリンピックでは聖火をスタジアムに持って登場した。本人は、金メダルよりもこの時の方が嬉しかったと話していたそうである。それから 4 年後の 2002 年、ソウル病院で死去した。享年 90 才であった。

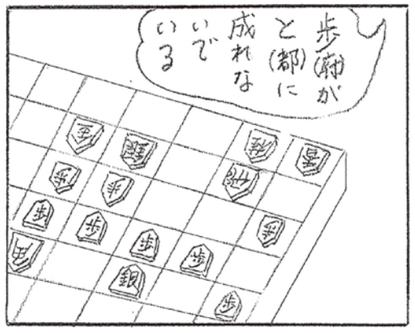
マラソンの日本人メダリストは、1964 年の東京オリンピックでは円谷幸吉が銅メダル、1968 年のメキシコオリンピックでは君原健二が銀メダル、1992 年のバルセロナオリンピックでは森下広一が銀メダルを獲得した。金メダルの獲得者はいない。

一方、1984 年のロスアンゼルスオリンピックから採用された女子マラソンでは2000年のシドニーオリンピックで高橋尚子が、2004 年のアテネオリンピックでは野口みずきの二人が金メダルを獲得している。正に女子上位である。

まんが

将棋

ほんだぽん太（学 31 期）



リレーエッセイ

いろんなところで いろんな繋がり

丸川 治（学32期）

前号、森川浩志先生（学 36 期）からバトンを不意に引き継ぐことになりました、学32期生、丸川治です。森川先生とは 20 年ほど前の第 1 解剖大槻教室在籍時代からの同志で基礎研究や臨床研修や勉強会や飲み会、音楽会など現在では公私共々家族ぐるみでお世話になっています。

では、まず自己紹介からです。私は昭和 58 年岡島外科入局ですが、平成 9 年に大先輩の故・下村忠朗先生（学13期）の急逝に伴い吹田の診療所を急遽継承させて頂きました。その際には、血管外科グループ、板谷外科の重鎮の先生方にも手取り足取りのご指導で助けられ支えられて僅か数週間で継承の手続きを完了することが出来ました。その後も多くの先生方のご支援のお蔭でこれまで 19 年間を何とか過ごす事が出来ております。

また、吹田市医師会や社保審査会で多くの先輩後輩方に助けられたり、最近入社したゴルフ倶楽部においても、すぐに歓迎の懇親会をして頂き、その後も定期的に楽しいお付き合いをさせて頂いたりしております。このように、いろんなところで（酒場でも）いろんな繋がりがあり、仁泉会会員であり外科の同門である事を今も深く感謝しております。

ところで我が家は仁泉会とはご縁が深く、義父・山本宰啓（高20）をはじめ、実兄・丸川太朗（学30 期）妻・恭子（学32 期）長男・雄大（学59期）が皆揃って大阪医大でお世話になった生粋の仁泉会家系？です。しかし長男が卒業してからは大学には足を運ぶことも少なくなり、この仁泉会ニュースや定期的に開催される仁泉会学術講演会や支部勉強会、“若竹医師の会”（前号紹介の開業医勉強会）が、我々世代の仁泉会の一つの情報の場であると楽しみにしています。今後も若い会員も呼び込んで益々大きくなって盛り上がって発展していってほしいと考えています。

とかく同門意識が希薄化した！といわれる昨今、まだまだ仁泉会は捨てたものではない！ いろんなところで同門の先生方の繋がりの有難さを感じる今日この頃です。これからも一員として私共も微力ながら頑張っていきたいと思いますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

追伸

①仁泉会ニュースが大きく見やすく内容も一新されましたね。広報・御前 治先生（学33 期）の御発案でしょうか。流石です！ 今後も大学や仁泉会の様々な情報がよりオープンになる事を願います。

②近況。リオ五輪に向けてそろそろ観戦モードに入ろうかと毎夜ワインを片手に、既にプレメディ開始中です。余談ですが、今の私のお気に入りワイン、白はナパのシャルドネ（樽コクリッチ系）赤は豪のシラーズ（フルーティ＆スパイシー系）泡はニュージーランドがマイブームです。酒代が徐々に増大中で、我が家の丸川環境相兼財務相？から金縮・休肝・自粛の緊急命令が発せられてしまいました。

③女医会（次回 6/25）のご案内です。大変楽しい会（らしい）です。新しい出会いと繋がり、是非とも一度ご参加下さいませ！（との事です）

最後に、次号のリレーエッセイの執筆は、ググッ！と若返り、勉強会とワイン繋がりで、茨木で大変頑張っておられる、月山芙蓉（学49 期）先生にお願い致します。

本部だより

会員訃報

次の会員が亡くなられました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医 8 期　鈴木計男先生
平成27年 9 月16日心不全の為ご逝去（100 歳）。昭和14年卒。
新潟鉄道病院にて内科医としてご勤務になり、ながきに亘り地域医療を支えられました。
ご遺族　妻　信子様

高医 15 期　杉本　宏先生
平成28年 2 月13日慢性心不全・嚥下性肺炎合併の為ご逝去（96歳）。昭和20年卒。
終戦後から篠山市にて第 3 代目として内科・外科診療所を継がれました。篠山市医師会名誉会長もお務めになられ、地域医療に貢献されました。「朝から深夜まで求められる診療に応じるとても真似の出来ないうしろ姿でした。最期まで「自然のまま」一切の治療行為はしないで生きぬいた大往生でした。」とのご遺族様のお言葉です。
ご遺族　子息　健郎様

高医 17 期　南條　久先生
平成 27 年 10 月 10 日肺炎の為ご逝去（91歳）。昭和23年卒。
大阪市大正区・大正病院にて会長をお務めになり、地域医療に尽力されました。「2 週間の入院にて安らかに旅立ちました。」との奥様のお言葉です。
ご遺族　妻　美代子様

高医 19 期　長田義昭先生
平成26年 1 月14日胃がんの為ご逝去（86歳）。昭和25年卒。
卒業後母校産婦人科に入局され、副手として勤務されました。昭和 29 年に京都大学医学部法医学研究生を経て助手、京都府監察医になられました。昭和 34 年には医学博士を取得され、大阪中央病院、聖ﾊﾞﾙﾅﾊﾞ病院にて内科医として勤務されました。昭和 40 年に大阪市北区にて長田内科診療所を開設され平成 15 年に閉院されるまで地域医療に携わってこられま

大阪医大女医会のご案内

大阪医大ご卒業の女医の先生方におかれましては、お元気にご活躍のことと存じます。

さて、平成28年度の女医会のご案内を申し上げます。今回は学33期の平松昌子先生が「ガラスの天井を打ち破れ！ Crack the glass ceiling」と題して、最近の食道癌外科治療の進歩と女性外科医の活躍を応援する活動についてご講演下さいます。最新の外科情報を得て、世代の違う先生方と交流する良い機会です。是非、多くの先生方ご参加下さいませ。

尚、発送予算の都合上、学 34 期以降の先生には案内状をお送り出来ませんので、参加ご希望の先生方は下記の連絡先までお知らせ下さいませ。

記

日時：平成28年6月25日（土）　午後 6 時30分より
場所：ホテルグランヴィア大阪　20階 「名庭の間」
会費：20,000 円
当番幹事　学32期　寺崎由香　丸川恭子、学33期　辻口比登美
連絡先：有澤総合病院内科　寺崎宛　Tel：072-847-2606　FAX：072-849-9855

した。
ご遺族　長男　晃一様

学部２期　北脇　脩先生
平成27年12月26日急性心不全の為ご逝去（90歳）。昭和28年卒。
昭和42年に橋本市にて外科をご開業になりました。お亡くなりになる前日まで診療を続けておられたとのことです。
ご遺族　長女　まゆみ様

学部７期　岸田　司先生
平成27年９月23日ご逝去（83歳）。
昭和33年卒。
卒業後、大阪大学第１外科にて学位を取得されました。市立芦屋病院、堺近森病院に外科医としてご勤務になり地域医療に尽くされました。
ご遺族様　妻　照代様

学部10期　山口春雷先生
平成28年２月16日肺炎の為ご逝去（82歳）。
昭和36年卒。
昭和41年に山口県周南市にて山口医院（皮膚科・泌尿器科）をご開業になり、地域医療に貢献されました。仁泉会山口県支部長として会務運営にもご尽力いただきました。
ご遺族　長男　雄英様

学部12期　林　孝先生
平成28年３月３日前立腺がんの為ご逝去（81歳）。昭和38年卒。
卒業後第２内科（岩田教授）に入局されました。山田赤十字病院内科での勤務を経て、昭和46年７月に三重県松阪市にてご開業になりました。松阪地区医師会長、三重県医師会理事、社保審査委員などを歴任され、功労賞や厚労大臣賞、松阪市民栄誉賞など数々の賞を受賞されておられます。「昔は新聞部にいて、楽しい学生生活を高槻でおくったようです。」とのご遺族様のお言葉です。
ご遺族　長男　毅様

学部13期　山下欣司先生
平成28年２月22日慢性心不全の為ご逝去（80歳）。昭和39年卒。
卒業後から10年間第３内科に在局され、その間に大学院博士課程を修了されました。39歳で大阪市西成区の内科医院を継承され、地域医療に貢献されました。
ご遺族　妻　英子様

学部14期　八幡雅志先生
平成27年12月29日心筋梗塞の為ご逝去（76歳）。昭和40年卒。
昭和45年に大学院を修了し博士号を取得されました。昭和48年に大阪市都島区にて八幡整形外科を開業され、平成25年に閉院されるまでの40年間地域医療に尽力されました。平成２年より大阪府医師会理事、日本医師会労災自賠責委員会委員、平成15年より大阪府社会保険診療報酬請求書専任審査委員、平成18年より大阪府警察医会会長、平成22年より大阪府医師健康保険組合副理事長を歴任され、平成16年には日本医師会最高優功賞を、平成23年には旭日双光章を受章されておられます。「臨終はかねてよりの約束通り同窓の駒木忠誠先生が告げてくださり、何よりの餞として頂きました。仁泉会ニュースは欠かさず読んでおり追悼の記事を読むにつけ感慨深そうでございました。通院加療中ではございましたが、医師国保の副理事長という大役を続けておりました。」との奥様のお言葉です。
ご遺族　妻　和子様

学部15期　宇仁　豊先生
平成28年２月３日肺がん、多発性肝臓がん、脳転移の為ご逝去（78歳）。昭和41年卒。
卒業後東邦大学病院第２外科に入局されました。昭和48年４月に東伊豆外科をご開業になり、平成17年４月には東伊豆ファミリークリニックを開設され、平成27年11月20日に閉院されるまで地域医療の為に尽くされました。「闘病生活３ヶ月、後輩の先生方の献身的な治療により苦しさ、痛みも無く、食べることもオシャレもして逝くことが出来ました。」との奥様のお言葉です。
ご遺族　妻　寿美子様

学部31期　真砂光宏先生
平成28年２月１日腎がんの為ご逝去（61歳）。昭和57年卒。
昭和59年より柏原赤十字病院にて、平成２年より北摂総合病院にて小児科医としてご勤務の後、平成８年茨木市にマナゴこどもクリニックを開設され、地域医療に携わられました。
ご遺族　妻　由佳子様

編集後記

今回の編集後記をどうしようかと考えていたところ、熊本をはじめとした震災の報がありました。被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。

このような災害や大事故発生の際、人命救助、傷病者への対応を行う医療が重要になってきます。先日、英国での救急・災害医療体制についての講演を聞く機会がありました。日本の救急医療では、いかに早く患者を病院に搬送するかという点が重視されているきらいがあります。これに反し英国などでは、いかに早く現場に医療行為をおこなえる人材を派遣するかを考えているとのことでした。この場合の人材とは救急専門医だけではなく、訓練を受けた GP（英国家庭医）やパラメディカルスタッフも含まれます。大規模災害では搬送手段や医療機関自体が機能しない可能性があります。このような場合、英国方式のほうが良いのかも知れません。本邦でも阪神・淡路大震災を契機に検討がなされ、DMAT をはじめとしたチームが本格的に組織されるようになりました。今回の震災でもすでに派遣されているとのことです。一人でも多くの方が救助されることを願っております。（治）

仁泉会事務局メールアドレスについて

この度、事務局のネットワーク整備に伴い、２つあったメールアドレスの内、jinsenkai@etude.ocn.ne.jp は平成27年11月末日をもって廃止となりました。
今後はjimu@jinsenkai.net のみとなりますのでよろしくお願い致します。

廃止：jinsenkai@etude.ocn.ne.jp
現行：jimu@jinsenkai.net

ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの
医療印刷

タツミ印刷株式会社
お気軽にご相談下さい。
池田・高槻
tel: 072-761-8434